混合教育（インクルーシブ教育）の成果

成果報告書

平成28年度　文部科学省委託事業
成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業
混合教育（インクルーシブ教育）の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など
特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業

学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校

目　　次

第１章　事業の概要……2~8

１－１　事　業　名

１－２　事業の概要

１－３　事業の背景

１－４　事業の実施期間

１－５　事業の実施体制

１－６　事業推進委員会及び分科会実施経緯

第２章　発達障がいのある生徒等の受け入れの現状及び
教育支援体制に関する実態調査……9~22

第３章　公開授業の報告及びその成果……25~42

３－１　公開授業の報告

３－２　公開授業参加者へのアンケート調査から

第４章　障害のある人への理解教育のための取り組み……43~57

４－１　本校で学ぶ生徒たちへのアンケート調査から

４－２　DVD「ぼくとバディと」を活用した教材開発

第５章　まとめと課題……58

第１章　事業の概要

１－１　事　業　名

平成28年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」

『混合教育（インクルーシブ教育）の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業』

１－２　事業の概要

全国の高等専修学校の多くが、発達障害等特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしており、その教育支援について困惑している状況がある。また、昨年度本校が大岡学園高等専修学校の事業と連携して実施した教育支援体制に関する実態調査から、当該生徒は障害のない生徒と同環境で学んでいる現状であることが把握できた。本校は、これまで発達障害のある生徒が障害のない生徒と同環境の中で日常的な交流を通して学ぶことによって、双方に教育効果をもたらす混合教育を実践してきた。正に、本校の取り組みを他校に提供することが有効であると確信するに至った。本事業では、本校で実践している混合教育の教育効果について実証し、教育実践記録の取りまとめ、教育モデルカリキュラムの開発等を行い、広く全国の高等専修学校をはじめとする教育機関に普及させていくことを目的とする。さらに、教育界においてインクルーシブ教育の重要性が叫ばれる中にあって、本校が取り組む混合教育を広く発信することにより、社会における障害ある人への理解推進、ノーマライゼーション実現に向けての一矢となるよう取り組んでいくものとする。

１－３　事業の背景

全国高等専修学校協会が実施した「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」報告書から高等専修学校における発達障害のある生徒及び特別な支援措置の必要な生徒を合わせると、平成27年度は12.6%、平成26年度は14.0%を占めるという結果が出ている。平成21年３月に実施した調査（通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査）によると、中学３年生のうち発達障害等困難のある生徒の割合は、2.9% であり、そのうち 75.7% が高等学校に進学するとのデータがある。つまり、高等学校に進学する発達障害等困難のあるとされた生徒の高等学校進学者全体に対する割合は約 2.2%となる。つまり、高等専修学校は、高等学校の約６倍に相当する発達障害等の生徒たちの受け皿になっている実態が見えてくる。

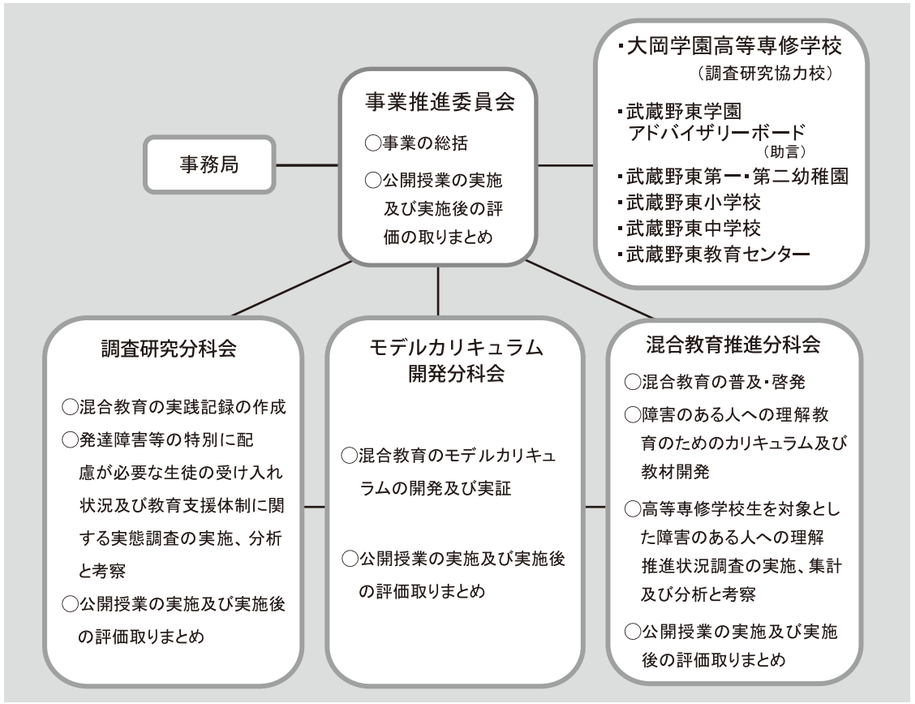
また、昨年度本校で推進した「発達障害のある生徒等、特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラム等の開発　～職業教育と混合教育の成果～」事業において、大岡学園高等専修学校との連携で「発達障がいのある生徒の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査」を全国高等専修学校協会会員校（203校）対象に実施した。その中で、発達障害のある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしている学校が 72.9%、発達障害のある生徒及び特別に配慮が必要な生徒が障害のない生徒と同環境で学んでいる学校が 96.2%であることがわかった。また、同環境下で学ばせているメリット、デメリットについても調査したところ、メリットとして発達障害のある生徒と障害のない生徒双方に教育効果があるとの記述が多く、正に教育界で叫ばれているインクルーシブ教育の効果と言われる回答が得られた。高等専修学校は、以前より高等学校では学びにくい、不登校経験、いじめられ経験、学習に躓いて自信を失っている生徒をはじめ、様々な成育歴や個性のある生徒の受け入れをして、当然のごとく同環境の中で教育を推進してきている。故に、発達障害のある生徒及び特別に配慮が必要な生徒においても当然のように同環境で受け入れることができる素地ができているようにも考えられる。一方デメリットについては、 当該生徒の学習支援、生活支援の難しさ、特に一斉指導の中における個別支援の難しさをあげる回答が多かった。

進路支援における困難や保護者の対応における問題点、教員研修の充実、他の機関との連携等においての情報不足を感じる回答が多かった。全国にある多くの高等専修学校から、発達障害のある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の教育支援について困惑している状況があると耳にしていたことが、この調査によって明確なものとなったと言える。

1－4　事業の実施期間

■平成 28 年 7月 1日～平成 29 年 2月 28日

1－5　事業の実施体制



（1）事業推進委員会

＜目的＞

事業全体の総括、構成機関及び分科会との連携

＜検討の具体的内容＞

・事業の総括　・事業の進捗状況についての確認　・混合教育の推進
・公開授業の実施及び実施後の評価取りまとめ　・事業成果の取りまとめ

＜体制＞ 本校役職者

	氏　名	所　属・職　名	役割等
1	清水　信一	武蔵野東高等専修学校　校　長	委員長
2	渡辺　正司	武蔵野東高等専修学校　校長代行	副委員長
3	泉　秀夫	武蔵野東高等専修学校　教務統括部長	委　員
4	天宮　一大	武蔵野東高等専修学校　教育統括部長	委　員
5	橘川　直人	武蔵野東高等専修学校　進路指導副部長	委　員

（2）調査研究分科会

＜目的＞

・発達障害等特別に配慮が必要な生徒の受け入れ状況と教育支援体制の実態調査の実施と分析・考察
・混合教育の実践記録の取りまとめ

＜検討の具体的内容＞

・調査の実施時期、調査内容、集計、分析と考察について※大岡学園高等専修学校の事業との連携
・混合教育の実践記録についての取りまとめ
・公開授業の実施及び実施後の評価取りまとめ

＜体制＞ 本校教員及びアドバイザリーボード委員（※）

	氏　名	所　属・職　名	役割等
1	大南　英明	全国特別支援教育推進連盟理事長	助　言
2	岩崎　敦子	武蔵野東学園卒業生保護者	助　言
3	室山　哲也	ＮＨＫ　解説委員	助　言
4	師岡　秀治	元学研ヒューマンケア編集長	助　言
5	泉　秀夫	武蔵野東高等専修学校　教務統括部長	委員長
6	髙田　一男	武蔵野東高等専修学校　教　諭	副委員長
7	大久保英之	武蔵野東高等専修学校　教　諭	委　員
8	杉山　知里	武蔵野東高等専修学校　教　諭	委　員

※上記１～４は、武蔵野東学園アドバイザリーボード委員

（3）モデルカリキュラム開発分科会

＜目的＞

混合教育モデルカリキュラムの開発・実証

＜検討の具体的内容＞

・本校にある年間活動・指導カリキュラム（普通教科・専門教科・ホームルーム）を基に、混合教育の関連事項を加えたモデルカリキュラムの構築
・モデルカリキュラムの実証
・混合教育モデルカリキュラムの開発
・公開授業の実施及び実施後の評価取りまとめ

＜体制＞ 本校教員及びアドバイザリーボード委員（※）

	氏　名	所　属・職　名	役割等
1	内山登紀夫	福島大学大学院教授・横浜発達クリニック院長	助　言
2	長内　博雄	前武蔵野東教育センター所長	助　言
3	寺山千代子	星槎大学客員教授	助　言
4	天宮　一大	武蔵野東高等専修学校　教育統括部長	委員長
5	松丸　力	武蔵野東高等専修学校　３学年主任	副委員長
6	志村　順	武蔵野東高等専修学校　２学年主任	委　員
7	安藤　晴啓	武蔵野東高等専修学校　１学年主任	委　員
8	釘村　佳伸	武蔵野東高等専修学校　専科主任	委　員
9	久保　幸治	武蔵野東高等専修学校　教　諭	委　員

※上記１～３は、武蔵野東学園アドバイザリーボード委員

（4）混合教育推進分科会

＜目的＞

混合教育の推進と障害あるの人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発

＜検討の具体的内容＞

・混合教育の普及・啓発
・障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発
・高等専修学校生を対象とした障害のある人への理解推進状況調査の実施、集計及び分析と考察
・公開授業の実施及び実施後の評価取りまとめ

＜体制＞ 本校教員及びアドバイザリーボード委員（※）

	氏　　名	所　　属・職　　名	役割等
1	関本　惠一	元帝京大学教授	助　　言
2	鎌倉ゆみ子	社会福祉法人　武蔵野千川福祉会　理事長	助　　言
3	宮崎　活志	武蔵野市教育長	助　　言
4	橘川　直人	武蔵野東高等専修学校　進路指導副部長	委 員 長
5	中田　重夫	武蔵野東高等専修学校　教　務　主　任	副委員長
6	篠原　　聡	武蔵野東高等専修学校　教　　諭	委　　員
7	景山　　優	武蔵野東高等専修学校　教　　諭	委　　員

※上記１～３は、武蔵野東学園アドバイザリーボード委員

※各分科会に加わっている武蔵野東学園アドバイザリーボードの委員については、10/24（月）、1/24（火）に開催するアドバイザリーボードミーティングにおいて各分科会の助言をいただくこととする。

※武蔵野東学園アドバイザリーボード委員である全国特別支援教育推進連盟理事長の大南英明氏には、9/24（土）に開催した公開授業において、「日本のインクルーシブ教育の現状と展望」を演題として基調講演をいただいた。

1－6　事業推進委員会及び分科会実施経緯

（1）事業推進委員会

開催回数：6回（7月・9月・10月・12月・1月・2月）

第1回　平成28年7月7日（木）
①事業内容について　②委員会・分科会の開催・会議議事録作成について
③事業推進における留意事項　④公開授業の準備

第2回　平成28年9月15日（木）
①各分科会の事業進捗状況報告　②公開授業実施に向けた最終確認
③事業推進における留意事項（雑役務費に係る仕様書等について）

第3回　平成28年10月20日（木）
①各分科会の事業進捗状況報告　②公開授業実施のまとめ
③事業推進における留意事項（雑役務費に係る仕様書再検討、契約期間の途中段階での支出証拠書類提出にあたって等）

第4回　平成28年12月15日（木）
①各分科会の事業進捗状況　②成果報告に向けて
③事業推進における留意事項（成果物製作にあたっての業者確定等）

第5回　平成29年1月17日（火）
①各分科会の事業進捗状況報告　②成果報告に向けて
③事業成果報告会について　④次年度契約継続に向けて

第6回　平成29年2月9日（木）
①事業のまとめ　②事業成果報告会について　③次年度契約継続について

（2）調査研究分科会

開催回数：7回（7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月）

第1回　平成28年7月19日（火）
①事業内容について
②混合教育の実践記録作成について
③発達障害のある生徒の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査について
④委員の役割分担について　⑤公開授業実施に向けて

第2回　平成28年9月13日（火）
①混合教育の実践記録の作成
②実態調査におけるアンケート内容の確認　③公開授業の準備・最終確認
④事業推進における留意事項（実践記録の仕様書等について）

第3回　平成28年10月13日（木）
①実践記録の校正進捗状況の確認及び書式、レイアウト、画像のサイズについての再確認
②公開授業のまとめ

第4回　平成28年11月17日（木）
①混合教育の実践記録作成の進捗状況の確認及び今後の 取り組みについて
②実態調査の進捗状況について

第5回　平成28年12月15日（木）
①混合教育の実践記録作成の進捗状況の確認及び今後の取り組みについて
②実態調査の進捗状況について

第6回　平成29年1月19日（木）
①実践記録の製作進捗状況の確認及び今後の取り組みについて
②実態調査の進捗状況ついて　③成果報告書作成について

第7回　平成29年2月10日（金）
①実践記録作成及び実態調査の振り返り
②成果報告書作成の進捗状況及び今後の発送作業について

（3）モデルカリキュラム開発分科会

開催回数：7回（7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月）

第1回　平成28年7月19日（火）
①事業内容について　②モデルカリキュラムの構築に向けて
③委員の役割分担について　④公開授業実施に向けて

第2回　平成28年9月13日（火）
①昨年度の事業の振り返りと前回の会議内容の確認
②各教科で作成中のモデルカリキュラムの内容チェック
③公開授業の実施に向けた分科会の準備について　④議事録の作成について

第3回　平成28年10月11日（火）
①作業進行状況の確認　②普通教科カリキュラムの確認作業
③次回、会議までの作業内容の確認　④公開授業のまとめ

第4回　平成28年11月8日（火）
①作業進行状況の確認　②専門教科カリキュラムの確認作業
③次回、会議までの作業内容の確認

第5回　平成28年12月7日（水）
①作業進行状況の確認　②専門教科カリキュラムの確認作業
③次回、会議までの作業内容の確認

第6回　平成29年1月17日（火）
①作業進行状況の確認　②ホームルームカリキュラムの確認作業
③次回、会議までの作業内容の確認

第7回　平成29年2月9日（木）
①ホームルームカリキュラムの確認作業　②今後の作業確認

（4）混合教育推進分科会

開催回数：7回（7月・9月・10月・11月・12月・1月・2月）

第1回　平成28年7月20日（水）
①事業内容について
②障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発について
③委員の役割分担について　④公開授業実施に向けて

第2回　平成28年9月13日（火）
①障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発についての進行状況報告（アンケート作成状況報告）
②公開授業の実施に向けて準備確認　③会議議事録の作成について

第3回　平成28年10月11日（火）
①障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発についての進行状況報告（アンケート原案の検討状況報告）
②公開授業のまとめ、アンケートの集計及び分析・考察

第4回　平成28年11月27日（木）
①障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発についての進行状況報告と検討（アンケート原案の検討状況報告）
②公開授業報告書の確認及びアンケートの分析による本校の混合教育の教育効果の検証に関する検討

第5回　平成28年12月15日（木）
①障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発についての進行状況報告と今後の取り組みについて

第6回　平成29年1月19日（木）
①障害のある人への理解推進状況調査集計報告
②障害のある人への理解教育のためのカリキュラム及び教材開発についての進行状況報告

第7回　平成28年2月29日（木）
①事業の進捗状況についての確認
②ワークシートの活用、プロモーション方法について検討

（5）武蔵野東学園アドバイザリーボードミーティング

開催回数：2回（10月・1月）

第1回　平成28年10月24日（火）
①事業内容の説明と委員への協力要請　②9/24（土）公開授業の報告

第2回　平成29年1月24日（火）
①事業全体の進捗状況報告及び分科会ごとの説明

＜会議スケジュール＞

	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
事業推進委員会	○	○	○		○	○	○
調査研究分科会	○	○	○	○	○	○	○
モデルカリキュラム開発分科会	○	○	○	○	○	○	○
混合教育推進分科会	○	○	○	○	○	○	○
アドバイザリーボードミーティング			○			○	
成果報告会							○

第２章　発達障がいのある生徒等の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査

2−1　アンケート結果集計と分析

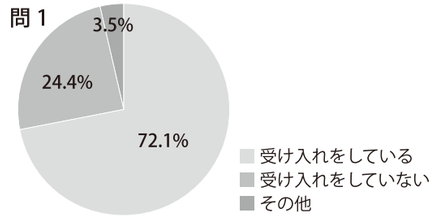
平成 27 年度全国高等専修学校協会が実施したアンケート調査によると、高等専修学校における発達障がいのある生徒及び特別な支援措置の必要な生徒を合わせると、生徒全体の 12.6％を占めるという結果が出ている。これは、高等学校における受け入れ状況と比べ６倍弱の数字となっており、高等専修学校がそのような生徒の受け皿になっていることが見えてくる。このことから、昨年度に引き続いて、全国高等専修学校協会、さらには同職域プロジェクトにおいて学校法人大岡学園　大岡学園高等専修学校が実施している「高等専修学校における発達障がい若しくは支援や特別措置が必要な生徒に対する支援システムの構築」事業と連携して、全国高等専修学校協会会員校 200 校を対象に高等専修学校における発達障がいのある生徒の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査としてアンケート調査を実施した。

アンケート結果集計と分析　　【調査概要】

■調査時期　　成 28 年 11 月 7 日～24 日
■調査対象　　全国高等専修学校協会　会員校 200 校
■回 答 校　　86 校（回答率：43.0%）

問 1.　貴校では発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしていますか。

		校　数	割　合
a	受け入れをしている	62	72.1%
b	受け入れをしていない	21	24.4%
	その他（特別な区別なし）	3	3.5%

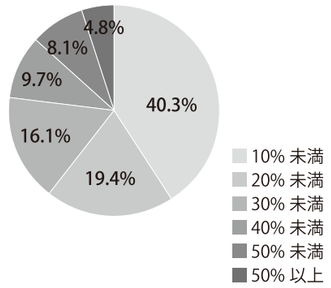


分析と考察

「受け入れをしている」と回答した学校が 62 校、全体の 72.1％を占める結果が得られた。昨年度の調査結果においても、72.9％であり、約 70％の高等専修学校が「受け入れをしている」状況であることが推察される。また、昨年度同様、アンケート調査の結果から「受け入れをしていない」学校の大半は、医療・衛生分野で、国家資格取得を目標におく分野において、難しい現実があると推察できる。

問 2.　貴校で学ぶ発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の、全校生徒に占める割合を次の中から選び、お答えください。

		校　数	割　合
a	10% 未満	25	40.3%
b	20% 未満	12	19.4%
c	30% 未満	10	16.1%
d	40% 未満	6	9.7%
e	50% 未満	5	8.1%
f	50% 以上	3	4.8%

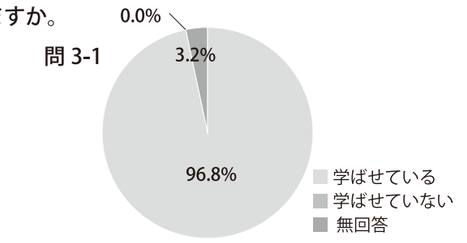


分析と考察

全校生徒に占める割合としては、20％未満の学校が 37 校 59.7％（昨年度 49％）とおおよそ過半数を占めている。30 人学級を想定すると、2～6 人程度が当該生徒となる。そのような中で、50％前後の当該生徒がいる学校も 8 校あることから、積極的に受け入れをしている学校も存在していることも忘れてはならない。

問 3-1.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を、障がいのない生徒と同環境で学ばせていますか。

		校　数	割　合
a	学ばせている	60	96.8%
b	学ばせていない	0	0.0%
	無回答	2	3.2%



分析と考察

同環境で学ばせている学校は、受け入れをしている学校 60 校で、96.8％であった。昨年度も 96.2% と同様の結果であった。各学校において、同環境にしている理由は異なるかもしれないが、この状況でいかに教育を推進していくかが重要と考える。

問 3-2.　（問 3-1 で a を選択した方のみお答えください。）同環境で学ばせている上での具体的な工夫点があれば記述してください。

・習熟度別少人数のクラス編成（一部教科）、TT の導入（実技科目）
・7・8 時間目に個々に応じた指導の時間を取り入れている。
・教室環境の整備と構造化、LD に関してはディジーによる学習環境を研究中
・軽度の生徒ばかりなので同じように扱っているが、一部席を前列にする。授業の内容をボイスレコーダーで録音することを許可している。
・それぞれの個性があることを尊重するよう常に伝えるようにしている。
・個別指導・体験を中心とした授業。
・授業内や学校生活において、予定を丁寧に説明するなどの見通しを立てやすくする。書字負担を軽減するためにプリント学習を多く取り入れる。
・補習などを実施。
・TT 制度の導入（英・数・国）、習熟度の導入
・習熟度別クラス編成、ティームティーチング、教員の配置（担任・副担任制、学年サポート教員の配置、進路専任教員の配置）、カリキュラム
・学習に対する配慮として、できない子を前提に授業づくりをしている。より興味を持って集中できたり、誰にでもわかるようにと、できなかった体験を減らし、できた体験を増やす工夫をしている。
・基本的に同環境でスタートするが、難しい場合や要望があった場合、個別学習で対応できる環境を整えている。
・知識習得が遅れている場合は、授業後の補習を実施している。
・学校生活の構造化。
・少人数クラスや習熟度別クラスの設定。
・自尊感情を持つことのできるサポート・複数担任制・ソーシャルスキルトレーニングの授業。
・互いに良いところを認め合う人間関係づくりを、学校行事を通して行っている。

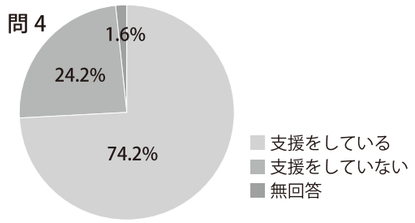
・少人数クラスや習熟度別クラスの設定。
・自尊感情を持つことのできるサポート・複数担任制・ソーシャルスキルトレーニングの授業。
・互いに良いところを認め合う人間関係づくりを、学校行事を通して行っている。
・少人数制、必要に応じ補助教員が入る。
・一部の科目を習熟度別クラス編成にし、幅広い学力の生徒に対応できるようにしている。
LHR を通じて、他者理解を深め、個々の在り方を考えさせるような時間を設けている。保護者と密接に連絡を取り合い、ＨＲや授業での様子を伝え情報交換するようにしている。
・視覚支援、教育研修等。
・個別指導もしている。
・作品づくり等は簡単なものにする、グループを組む際に、能力のバランス等を考慮する。
・同環境で学ばせているが、教員は情報を共有しているため丁寧に説明することが他の生徒への道徳観の育成に役立ち、社会性を身につけさせることになる。又、学習面での理解も役に立つ。
・授業内で学びきれない生徒に対して、補習授業を行い少人数での指導をしている。
・生徒の特性を個々に他の生徒にも理解してもらうようにしている。
・個別で話を聞く等の時間を多くとるようにしている。
・保護者との連携や一人一人に注意する組織づくり。
・個別指導（教科目による）や、保護者との日常的な連携、及び学校行事における保護者の同行要請
・授業中にノート記入等、遅れがないかを確認する。
・教員の面談、学校カウンセラーの活用。（計画的な面談の実施）
・お互いを理解させる時間を十分にとる。
・お互いの個性を認める・余裕を持った情報提供を行う・板書等で見えるようにしておく。
・教職員の情報共有、個々対応。
・発症した時に他の生徒に説明する。
・授業では具体的にわかりやすく説明し『基礎学力講座』を実施し、学力不足を補う工夫を行っている。
・生徒の様子について教員間での情報交換を密にしている。
・専任のカウンセラーが、心理面の支援を行っている。
・科目によっては個別指導をしている。
・土曜学習での基礎学力の向上・個別指導の併用。
・少人数制・なるべく指示は黒板等に記入して視覚からの指導。

分析と考察

今年度新たに設定した設問であり、同環境で学ばせている状況における工夫点を明らかにしたいと考えた。各校の回答から、「少人数制クラス編成」「教員の配置（ティームティーチング、担任・副担任制、専門家教員の配置等）」「教育環境の整備」「教材の工夫」「生徒間の関係構築」「個別支援」における工夫点が見えてくる。

問４．発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒に対して、何らかの支援（教育上の配慮等）をしていますか。また、a と回答された方は、具体的な支援について記述してください。

		校　数	割　合
a	支援をしている	46	74.2%
b	支援をしていない	15	24.2%
	無回答	1	1.6%



具体的な支援

・【生活面】保護者面談・メール・SNS 等の活用　　【学習面】個別補習・休日補講
【就　労】関係機関との連携
・授業の際、HR 教室では座席を前にする等。担任や学年団は昼休み必ず教室に入って指導する。
・個別対応。（問題が発生した場合のみ）
・他の生徒と足並みがそろうように技術面で支援している。
・個人的に対応する時間を作る。
・補習等の実施、カウンセリング、面談。
・保護者との連携・個別指導。
・生徒１人ひとりの主張を聞き、その上で丁寧に説明をする。
・担任による密な保護者連携、カウンセラー等。
・学校全体でその生徒の情報を共有している。生徒のレベルに応じ、個別に学習支援を行っている。
・連絡関係は保護者と連動。
・個別支援、個別支援計画に準ずるシステム、保護者との連携強化、教員間の情報共有、バディ制度（障がいのある生徒と障がいのない生徒のペア制度）。
・個別指導環境の充実・カウンセラーの導入。
・授業後の補習、教室の座席。
・放課後の課題への取組み等。
・教材を拡大コピーする。板書のノートをコピーして渡す等。
・個別指導・保護者との情報共有。（連絡帳を作るなど）
・通常学級に適応できない場合、特別なクラス編成をし、対応している。
・特別支援教育士による授業巡回、個別面談。
・保護者やスクールカウンセラーと連携を図り、個に応じた支援を行っている。
・個別指導計画を作成し、個々に合わせた支援を行う。
・書字が困難な生徒には板書内容のコピーを渡す。解答欄の枠の工夫。本人の習熟度に合わせた課題設定と試験範囲の設定。個別に宿題（基礎漢字や日記）を課し、基礎学力の向上を図る。
・本人が希望する時は、他の教室で休憩させている。
・実習棟で手伝ってあげる、手伝える生徒と組ませる。
・実習が遅れたり、できなかったりするので時間をかけて指導しています。
・放課後等の個別指導。
・カウンセラーとの協力体制。
・授業中及び授業後に理解度の確認をする。補習等を実施する。
・保護者との連絡の拡充。
・カウンセリングを行える体制をとっている。
・特性を把握し共有したうえで個々に必要なサポートを施している。必要に応じてケース会議も行っている。
・保護者会において保護者の理解、協力。
・必ず予定を順序立ててきめ細かく説明している。特性に配慮し、板書の仕方、初期動作の指示を出している。
・出席確認時の返事を挙手。
・補習、補講の実施等。
・教育相談
・学校心理士が常勤し、必要に応じて対応している。
・少人数での授業または授業終了後に対応しての反復。。
・個別指導をしている。
・学力向上対策
・教室での環境づくり・サポートファイルの利用・少人数制・補習（個別指導）・相談事業所等との連携。

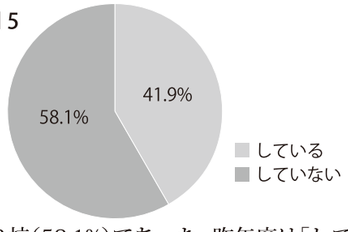
分析と考察

何らかの支援(教育上の配慮等)をしている学校は 46 校(74.2%)を占めた。昨年度は、85.9%であり、高い割合であることは変わらない。さらに、今年度新たな設問としてその工夫点について、問３－２同様の回答「**少人数制クラス編成**」「**教員の配置（ティームティーチング、担任・副担任制、専門家教員の配置等）**」「**教育環境の整備**」「**教材の工夫**」「**生徒間の関係構築**」「**個別支援**」に加え、「**保護者との連携**」という工夫点が見えてきた。各校からの具体的な工夫点は、有用な情報になると考える。

問 5.　入学の際、発達障がいのある生徒には、療育手帳及び精神障害保健福祉手帳の有無、もしくは 医師の診断書の有無について聞き取りあるいは申告をするようにしていますか。

		校　数	割　合
a	している	26	41.9%
b	していない	36	58.1%

問 5



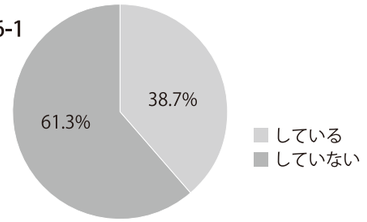
分析と考察

「している」学校が 26 校(41.9%)、「していない」学校が 36 校(58.1%)であった。昨年度は「している」39.7%、「していない」57.7%とそれぞれ同様な結果が得られている。「している」学校より「していない」学校が多いことは変わらないところである。しかし、問２において当該生徒を 50% 前後受け入れている８校だけでみると、「している」学校が６校（75%）と高い割合を示した。積極的に受け入れるためには、事前の聞き取りや申告をするようにしていくことが必要と考えている学校が多いと考えられる。

問 6-1.　特別に配慮が必要な生徒に対して、保護者に療育手帳もしくは 精神障害保健福祉手帳を取得するよう働きかけをしていますか。

		校　数	割　合
a	している	24	38.7%
b	していない	38	61.3%

問 6-1



分析と考察

「している」学校が 24 校（38.7%)、「していない」学校が 38 校（61.3%)、昨年度においても「している」46.2%、「していない」50.0%と、問５同様「している」学校より「していない」学校が圧倒的に多いことは変わらない。尚、問２において当該生徒を 50% 前後受け入れている 8 校だけでみると、「している」学校が 4 校（50%）という結果であった。

問６-２．（問６-１でｂを選択した方のみお答えください。）特別に配慮が必要な 生徒の保護者に対して療育手帳もしくは精神障害保健福祉手帳取得の働きかけをしていない理由について記述してください。

・療育手帳の有無も含め、保護者が隠したがる傾向が多い。働きかけに応ずる保護者はほぼいない。（場合によっては怒り出す場合もある）
・保護者が判断すべき事由であるため。
・保護者の中には発達障がいであることを認めたくない、伏せたい方もいるため。学校からは、日常生活、授業中の様子などを報告する程度にとどめている。

・学校からの働きかけをする事が難しい。
・こちらから働きかけるのは難しいです。
・プライベートな事に関わってくるので。
・多種多様な考えを持って見える保護者がいるため、保護者の判断に委ねている。
・働きかけるのが困難なため。
・保護者の考えを尊重している。
・３年間で発達するケースも多くみられるため。また取得することによって、保護者や生徒が破れる殻を破れなくなるようなら、こちらからはすすめない。
・保護者の判断に委ねているから。
・この部分に触れてほしくない保護者も多くいるため、学校から勧めるのが難しい。
・情報としては伝えるが、保護者の判断に任せている。手帳がなくても特別なサポートをするとお約束しているため。
・医師の診断を受けていないケースもあり、ケースバイケースの対応をしている。
・進路保障
・親の希望から
・保護者にとってデリケートな部分であるため、一概に取得した方が良いと言い切れない部分もあるため。
・保護者の中には認めたくない保護者もいるため、相談があれば勧めるが、積極的に働きかけは行っていない。
・個人情報の問題や、保護者の考え方もあり、突っ込んで話し合いをしづらいところがあります。
・保護者の意思を尊重した上で話をしている。
・断定できる状況に必ずしもないため。
・保護者の意思によるところが大きいため、学校側からの働きかけは原則的には行っていない。
・ほとんどが成人であるため。
・個人のデリケートな問題の為、踏み込めないのが現状である。
・必要な生徒はほぼ中学校で取得している。
・普段、働きかけはしいていないが、就職の難しい場合は働きかけを行う。
・人権問題に発展する可能性があるため。
・手帳取得は各家庭の選択すべきところであると考えているため。
・デリケートな問題なので、こちらから提案しにくい。
・対象者が明確で、強く疑われる場合は働きかけを行うが、そうでなければ困難である。

分析と考察

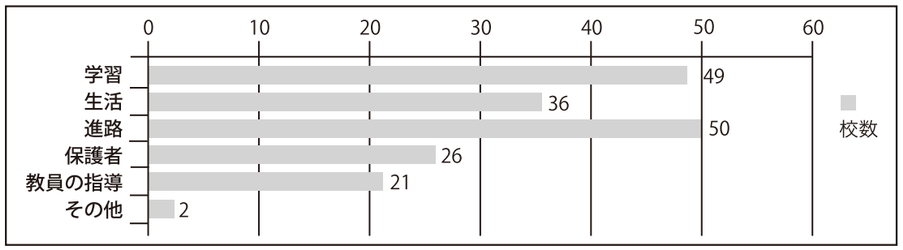
回答の多くは、「個人のプライバシーに関わる問題」「保護者・本人の障がいに対する受け入れの問題」が多くを占めている。これは、問５、問６-１の結果も含め、障がいのある生徒を積極的に受け入れ、教育支援及び進路指導の展開ができている学校であれば、当該生徒の将来も含め、働きかけをしていくことが可能であると思われるが、そうでない学校にとっては生徒・保護者への障がいを受け入れさせる点において非常に難しいハードルとなっているのではないかと推察する。

問７．発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の指導において、苦労している点についてお答えく ださい。

（複数回答可）

		校　数	割　合
a	学習	49	79.0%
b	生活	36	58.1%
c	進路	50	80.6%
d	保護者	26	41.9%
e	教員の指導力	21	33.9%
f	その他	2	3.2%

問７



その他の記述　・クラスメイトとの関係。授業中の発言等への注意。
・衝動性が強い生徒の突発的行動に対する指導。

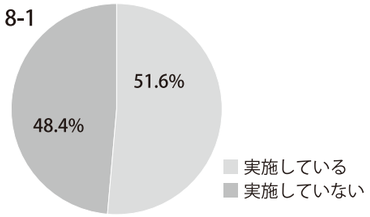
分析と考察

「進路」（80.6％）、「学習」（79.0％）、「生活」（58.1％）とかなりの割合を占めていることがわかる。昨年度は「学習」（67.9％）、「進路」（65.4％）、「生活」（55.1％）であり、「進路」と「学習」の逆転現象はあるものの、当該生徒の指導における問題点は、この３項目が大半を占めていると言えよう。

問 8-1.　発達障がいのある生徒の保護者に対して、特別な面談や保護者会を実施していますか。

		校　数	割　合
a	実施している	32	51.6%
b	実施していない	30	48.4%

問 8-1



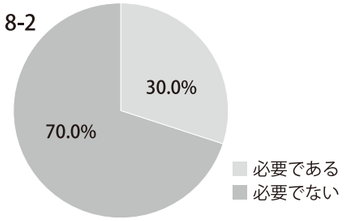
分析と考察

「実施している」学校が 32 校（51.6％）、「実施していない」学校が 30 校（48.4％）という結果であった。昨年度は、「実施している」学校が 28 校（35.9％）、「実施していない」学校が 45 校（57.7％）であったことからすると、若干ではあるが「実施している」学校が増えてきていることがわかる。尚、問２において当該生徒を 50% 前後受け入れている ８ 校だけでみると、「実施している」学校が ７ 校（87.5％）というさらに高い結果であった。

問 8-2.　（問 8-1 でｂを選択した方のみお答えください。）発達障がいのある生徒の保護者に対して、特別な面談や保護者会なるものが必要であるとお考えですか。

		校　数	割　合
a	必要である	9	30.0%
b	必要でない	21	70.0%

問 8-2



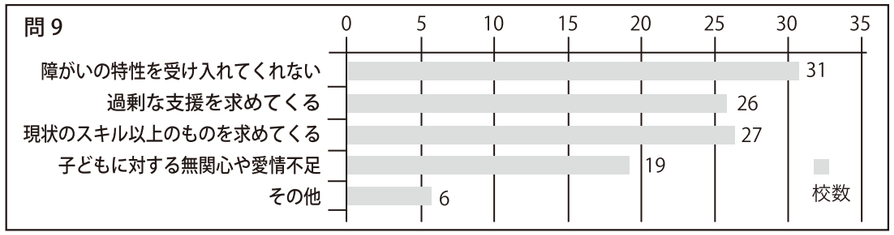
分析と考察

今年度新たな設問である。「実施していない」学校 30 校の内、「必要である」と回答した学校は ９ 校（30.0％）、「必要でない」と回答した学校は 21 校（70.0％）という結果であった。問２で得られた結果から当該生徒が全校生徒に占める割合が 10～30％の学校が多く当該生徒だけの保護者会となると実施するところまでの考えに至っていないのではないかと考えられる。これが、特別な面談というものだけであれば「必要である」の割合が高くなるのではないかと予想する。

問 9.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の保護者対応において、苦労している点についてお答えください。（複数回答可）

		校　数	割　合
a	障がいの特性を受け入れてくれない	31	50.0%
b	過剰な支援を求めてくる	26	41.9%
c	現状のスキル以上のものを求めてくる	27	43.5%
d	子どもに対する無関心や愛情不足	19	30.6%
e	その他	6	9.7%

問 9



その他の記述　・子供への期待値と本人の能力との差に大きく開きがある場合。
・保護者も同等の障がいであろうと思われる場合、指導協力が困難。
・就職先の決定。
・過保護、「この子は～だから～はできない」等。
・過剰とは言えないが『支援学級』のようなサポートを期待されることがある。
・障がい特性があるのも理解できない。

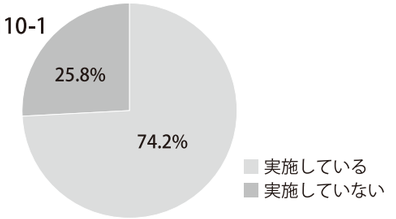
分析と考察

当該生徒の教育を推進するにあたって、保護者との連携は必要不可欠なところである。そのような状況下で、保護者との連携で難しさを感じている予想項目として「障がい特性を受け入れてくれない」（50.0％）、「現状のスキル以上のものを求めてくる」（43.5％）、「過剰な支援を求めてくる」（41.9％）、「子どもに対する無関心や愛情不足」（30.6％）を取り上げてみたが、やはり予想通りの結果となった。これは、問５から問６-２の結果とも重なる難しさを各学校が感じているところと推察できる。

問 10-1.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたって、教員の研修等を実施していますか。

		校　数	割　合
a	実施している	46	74.2%
b	実施していない	16	25.8%

問 10-1

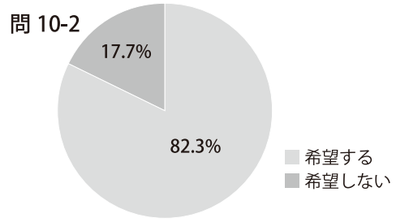


分析と考察

教員研修等を「実施している」学校が 46 校（74.2％）であった。昨年度は 60.3%という結果であり、当該生徒を受け入れる以上、教員の資質向上が必要と考える学校が多くを占めている。尚、問２において当該生徒を 50% 前後受け入れている ８ 校だけでみると、「実施している」学校が ７ 校（87.5％）という結果であった。

問 10-2.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたっての教員の研修会や講師派遣による研修会があれば希望されますか。

		校　数	割　合
a	希望する	51	82.3%
b	希望しない	11	17.7%

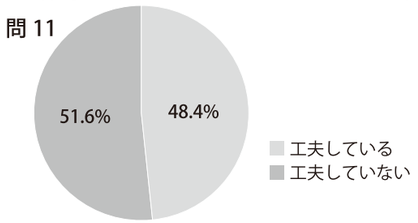


分析と考察

今年度新たな設問である。「希望する」と回答した学校が 51 校（82.3％）と大半を占める結果であった。当該生徒を受け入れている学校にとっては、教員の資質向上が必要不可欠なところであり、受け入れる以上、生徒たちの将来につながる教育支援を推進したいという強い思いが受けとめられる。全国や地域の協会での研修会の展開をはじめ、学校間の情報共有、講習会、教員派遣などの実施が必要と考えられる。尚、問２において当該生徒を 50% 前後受け入れている８校だけでみると、「希望する」学校が全てであった。

問 11.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたって、教員の配置等の工夫はしていますか。また、工夫している場合は、具体的な工夫点について記述してください。

		校　数	割　合
a	工夫している	30	48.4%
b	工夫していない	32	51.6%



具体的な工夫点

・複数教員で授業に対応している。
・経験のある教員を配置するよう配慮している。
・特別支援免許保持者及び特別支援学校勤務経験者。
・副担任を置き、生徒との相性を考えて支援するようにしている。
・担任と生徒の関係。
・入学前に可能な限り得た情報の中で、本人特性をより活かすことができる教員を担任とする。
・担任の選任。
・カウンセラーの配置、研修。
・ティームティーチングの実施、担任・副担任制、学年サポート教員の配置、進路専任教員の配置
・特別支援の教員免許を持っている教員がいる。
・授業を持たない教員を配置している。
・経験ある担任の配置等。
・少人数クラス。
・複数担任制・特別支援教育士の配置。
・教育相談課長・スクールカウンセラー・保護者会の設置。
・補助教員を配置している。
・特性に合わせたマッチング。
・ベテランの教員を配置している。
・状況によって副担任を配置する等。
・小さい学校なので職員数も少なく配置等も難しい点がありますが、理解して協力してもらうようにしています。

・福祉科クラスの担任は福祉科の教員に極力やってもらう。
・看護師資格を持った教員を常駐させたり、カウンセラーを配置し、保護者への対応も強化している。
・なるべく経験のある教員をつけるようにしている。
・１年次のクラス分けで発達障がいのある生徒が分散されるようにしている。また特別に配慮が必要な生徒の担任は必要に応じて３年間同じにしている。
・専属担当者をつくっている。
・教員の指導力や経験等。
・生徒に関する情報交換を行っている。
・配慮が必要な生徒を受け入れるにあたり、職員研修等を行っている。

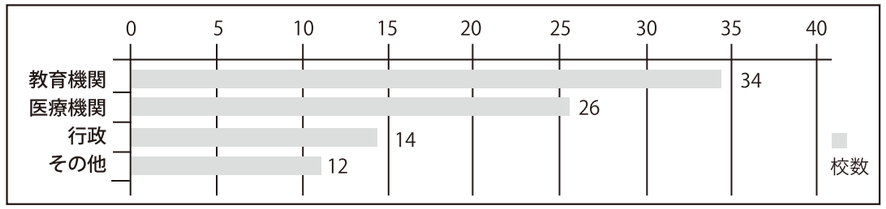
分析と考察

「工夫している」学校は、30 校（48.4％）、「工夫していない」32 校（51.6％）であった。昨年度は「工夫している」学校が 64.1％と高い割合を占めていたのだが、減少している。教員配置に無理な点が多々あるのであろうと推察するところであるが、明確なことが言えない。新たな設問として具体的な工夫点について調査したところ、「複数教員での学級経営や授業展開」「経験のある教員の配置」「専門的な資格を有する教員の配置」などの回答が多くあった。つまり、これまでの教員体制ではなく教員増の環境を作り上げた教育が展開されていることがわかる。各学校における教員増の環境づくりは非常に厳しいところがある状況下で、学校経営や教員に係る負担が増えている状況がうかがえる。

問 12.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたって、他の機関との連携をしていますか。（複数回答可）

		校　数	割　合
a	教育機関	34	54.8%
b	医療機関	26	41.9%
c	行政	14	22.6%
d	その他	12	19.4%

問 12



その他の記述

・支援センター・就労移行支援施設との連携
・福祉
・サポート施設
・ハローワーク・児童相談所
・いわき障がい者就業・生活支援センター
・福祉サービス関連
・中学校との情報交換
・勤務先
・ハローワーク
・ＮＰＯ法人

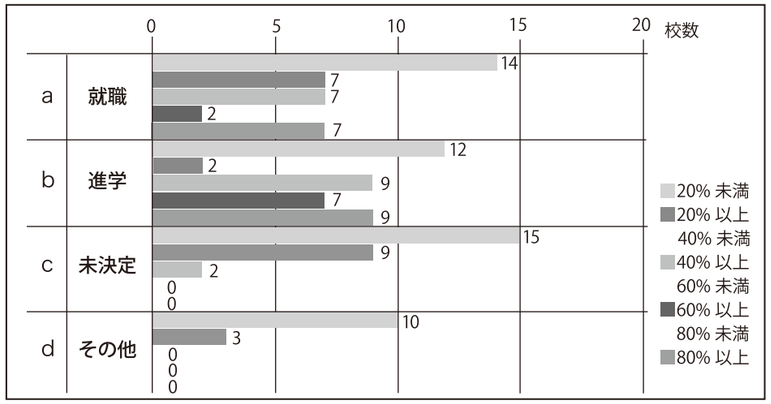
分析と考察

学校単独での支援にとどまらず、他の連携機関とのつながりがあることが明確になった。これは、昨年度と大きな変化はない。

問 13. 発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の卒業後の進路決定について、平成 27 年度卒業生の場合はどのような割合になっていますか。

	20% 未満	20%以上 40% 未満	40%以上 60% 未満	60%以上 80% 未満	80%以上
就職	14	7	7	2	7
進学	12	2	9	7	9
未決定	15	9	2	0	0
その他	10	3	0	0	0

問 13



その他の記述

・就労移行支援施設。
・訓練校
・家居
・30 名中 1 名専門学校へ進学。
・若者サポートステーション。
・進学浪人
・就労移行支援。
・障がい者枠での就職以外、特に区別して集計していない。
・アルバイト
・企業で就労実習を行ったり、校内においてジョブトレーニングを行わせることにより就職への進路決定に結びつけている。
・就労移行支援 。
・職業能力開発センター等。
・必要に応じて配慮する。
・校内に専門課程が移設されているので、様子の分かった生徒なので希望があれば可能な限り進学させ、そこでさらに成長させようとしている。
・留年の為、休学の為

分析と考察

問 7 において、当該生徒の支援において最も苦労している点でもある卒業後の進路について設問してみた。就職が 40%以上を占める学校は 16 校、進学が 40%以上を占める学校が 25 校となっており、昨年度の調査とほぼ同様に「就職率より進学率が高い」という結果が得られた。また、問 2 において当該生徒を 50% 前後受け入れている 8 校だけでみると、就職（企業就労だけでなく就労移行支援事業等を含めて）が進学を上回る学校が 4 校、おおよそ同じ割合の学校が 3 校となっている。尚、問題点としては、未決定者がいた学校が 26 校あることから、この部分をいかにフォローしていくべきかを検討していかねばならない。

問 14. 発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の卒業後の進路指導に関して、貴校のスタンスについて特別なものがあれば記述してください。

・ご入学頂いている限りは、100％の進路決定を絶対と考えている。
・手帳取得を勧め、卒業の支援の道筋を立てる。関係機関との支援会議を開く。
・他の生徒と同じように接する。差別をしない。
・ハローワークの障害者担当との連携。ＮＰＯ若者サポートステーションとの連携。
・３年次に進学クラスと就職クラスに分けている。ただし障がいの有無は関係なく指導する。
・生徒自身の立場に立ち、本人が持っている力を発揮しやすく、さらに社会人としての成長ができる進路指導を心掛けている。
・なるべく近況把握のため連絡をとるが、音信不通になることも。
・1 年次からの進路指導の強化。
・障がいある方としての就労支援を原則としている。また､卒業後の定着フォロー支援も行っている。
・就職では、ハローワークと連携して就職活動や職業訓練校、就労支援施設等の利用を決定している。進学では、将来の就労を考え、学校を選択させる。
・可能な限り生徒・保護者の希望に沿うようにしていく。（ケースバイケース）
・特になし
・卒業後も職場の巡回、訪問の実施。進学の場合は、卒業まで追跡し支援。
・目標としては、手帳を使わず就職するよう指導するが、能力的に無理な場合は、手帳を活かして進路決定する。
・生徒・保護者両方の思いを尊重しながら進めていく。
・保護者、本人の意思を尊重する。進学・就職だけではなく、トータル的な問題として福祉とつなげていく。
・入学時に保護者の意向を確認し、特別支援学校との違いや本校でできることとできないことをお伝えし理解していただくようにしている。また手帳の取得が必要と考えられる生徒については、折に触れて保護者と面談し、学校での様子をお伝えしたうえで取得を検討していただくようにお願いしている。
・生徒、保護者の懇談をベースに意向を決定：
・保護者からの要請があれば、障がい者枠での就職も行うが、一般の生徒と同様に進路指導をする。
・洋裁という技術を生かして就職（お直し等）ができればいいと思っています。
・就職活動をしていく中で、必要性を感じた際に就労支援についても説明。
・就労支援施設を紹介する。
・発達障がいの有無に関わらず、グループ校専門課程との高専連携教育に力を入れている。
・生徒に寄り添って。
・本人の適性に応じて幅広く保護者を交え話を進める。
・療育手帳を利用すべきかそうでないかを見極め、保護者や本人の意向も踏まえて決定。ハローワークや若者サポートステーションとの連携。

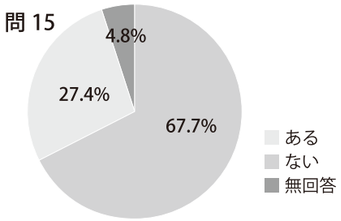
分析と考察

就職であっても進学であっても、当該生徒の将来のために力を尽くそうと考えられている学校がほとんどである。その中で、卒業後も追跡調査やフォロー支援を展開している学校が数校あることも注目すべき点である。

問 15.　障がいのある方としての就労の道筋で進路決定をさせたケースはありますか。

		校　数	割　合
a	ある	42	67.7%
b	ない	17	27.4%
	無回答	3	4.8%

問 15



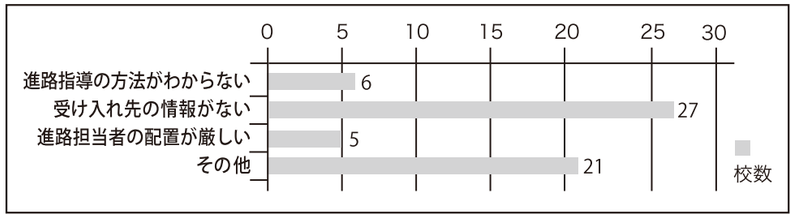
分析と考察

一概に障がいのある方としての就労が必ずしも良いということではないが、その方の個性や適性に応じた就労形態を考えるとなるとより良い方向性として考えることができる。昨年度の回答同様、「ある」と回答した学校が高い数字を占めた。がいのある方としての就労の道筋を理解され取り組んでいる状況があると言える。尚、問２において当該生徒を 50% 前後受け入れている８校だけでみると、「ある」学校が７校（87.5%）。、１校は卒業生を出していないという理由であった。

問 16.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の進路決定において苦労された点はどのようなことですか。（複数回答可）

		校　数	割　合
a	進路指導の方法がわからない	6	9.7%
b	受け入れ先の情報がない	27	43.5%
c	進路担当者の配置が厳しい	5	8.1%
d	その他	21	33.9%

問 16



その他の記述。。

・保護者の障がいの理解不足
・本人、保護者のいずれか一方、または双方に本人自身の障がい受容がなされていない場合、進路志望先のニーズと本人のニーズ、能力とのミスマッチが大きく、進路が決定しにくい点。
・保護者の理解。
・能力が低いため、学習、面接指導が難しい。
・卒業生なし。次年度以降。
・時間と労力がかかる。卒業後の定着フォロー支援体制の維持。
・受け入れ先の情報がもっと欲しい。
・養護学校のように決まったつながりがないため、確実な受け入れ先がない。
・受け入れ先が少ない。とくに知的障がいは厳しい面がある。
・保護者が生徒の現状を正確に認識していない。
・各個人の状況をよく見て進路指導をする必要がある。
・保護者や生徒自身の現状認識、進路の方向性が学校側とかみ合わない時に指導の限界を感じる。

・個々の特性に合うかの判断。
・３年になって申し出てくる生徒がいる。
・保護者が望む進路と現状のギャップ。
・保護者が受け入れ先の情報を知らない。
・親の理解が得られない。

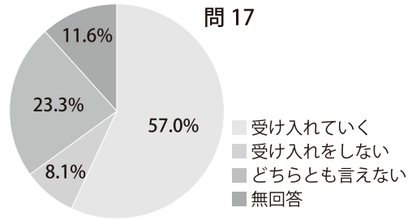
分析と考察

圧倒的に「受け入れ先の情報がない」（43.5%）との回答であった。障がいある方の雇用をしている企業であり、福祉事業所、職業能力開発校等の情報不足というところが主なものであると推察する。学校単独ではなく、ハローワークや市区町村における福祉課をはじめとした行政からの情報を獲得していく必要があることを伝えていかなければならない。また、地方にある学校からは、都市部と地方での障がいある方の受け入れ先にも格差があるとの声も聞く。この点についても、今後の対応が必要である。

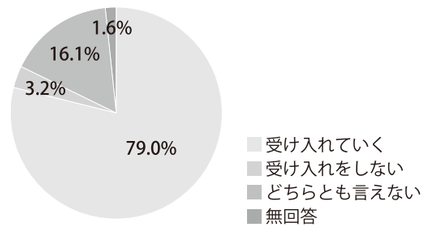
問 17.　今後、発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしていきますか。

		校　数	割　合
a	受け入れていく	49	57.0%
b	受け入れをしない	7	8.1%
c	どちらとも言えない	20	23.3%
	無回答	10	11.6%

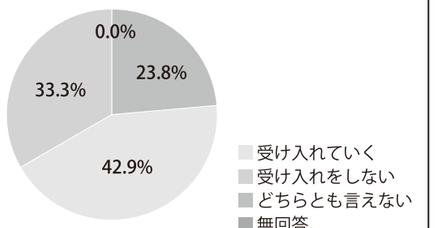
問 17



問１で『受け入れをしている』を選択した学校の今後



問１で『受け入れをしていない』を選択した学校の今後



分析と考察

今後の受け入れについて、「受け入れをしていく」学校が 49 校（57.0%）と過半数を超える結果となった。さらに、問１で「受け入れている」学校については、49 校（79.0%）が引き続き受け入れていく意思を明らかにしている。一方、問１で「受け入れていない」学校については、今後も受け入れをしていくとの回答はない。しかしながら、「どちらとも言えない」と回答した学校も 33.3% と割合的に多いことにも注目する必要がある。
様々な成育歴や個性のある生徒の受け入れをし、成果を上げてきている高等専修学校の現状から考えれば、今後も発達障がいのある生徒及び特別な支援が必要な生徒の受け入れについても求められていくことが予想される。

平成 28 年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」
高等専修学校における発達障がい若しくは支援や特別措置が必要な生徒に対する支援システムの構築

発達障がいのある生徒の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査

都道府県名（　　）　貴校名（　　）

分野（工業、農業、医療、衛生、教育･社会福祉、商業実務、服飾･家政、文化･教養）（複数選択可）

生徒数（　　）人（生徒数は平成 28 年 5 月 1 日現在の数でご回答ください）

記載者役職名・ご芳名（　　・　　）

e-mail（　　@　　）

問１．　貴校では発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしていますか。

※「発達障がい」とは…自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの。
※発達障がいのある生徒…「療育手帳」・「精神障害保健福祉手帳」等を有している又は医師の診断書のある生徒。
※特別に配慮が必要な生徒…発達障がいがあるとの診断書はないが発達障がいではないかと思われ、何らかの支援（教育上の配慮等）を行っている生徒。

a　受け入れをしている　b　受け入れをしていない　※ｂと回答された場合は、問17へ。

問２．　貴校で学ぶ発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の、全校生徒に占める割合を次の中から選び、お答えください。

a　10 パーセント未満　b　20 パーセント未満　c　30 パーセント未満
d　40 パーセント未満　e　50 パーセント未満　f　50 パーセント以上

問３-1. 発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を、障がいのない生徒と同環境で学ばせていますか。

a　学ばせている　b　学ばせていない

問３-2.（問３-1 でａを選択した方のみお答えください。）同環境で学ばせている上での具体的な工夫点があればご記入ください。

〔　　〕

問４．　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒に対して、何らかの支援（教育上の配慮等）をしていますか。また、ａと回答された方は、具体的な支援についてご記入ください。

a　支援をしている　b　支援をしていない

〔　　〕

問５．　入学の際、発達障がいのある生徒には、療育手帳及び精神障害保健福祉手帳の有無、もしくは医師の診断書の有無について聞き取りあるいは申告をするようにしていますか。

※療育手帳…知的障害であると判定を受けた者に対して交付されるもの。
※精神障害保健福祉手帳…療育手帳の取得ができない軽度発達障害のある方に対して交付されるもの。

a　している　b　していない

問６-1. 特別に配慮が必要な生徒に対して、保護者に療育手帳もしくは精神障害保健福祉手帳を取得するよう働きかけをしていますか。

a　している　b　していない

問６-2.（問６-1 でｂを選択した方のみお答えください。）特別に配慮が必要な生徒の保護者に対して療育手帳もしくは精神障害保健福祉手帳取得の働きかけをしていない理由についてご記入ください。

〔　　〕

問７．　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の指導において、苦労している点についてお答えください。（複数回答可）

a　学習　b　生活　c　進路　d　保護者　e　教員の指導力
f　その他（具体的に　　）

問 8-1.　発達障がいのある生徒の保護者に対して、特別な面談や保護者会を実施していますか。

a　実施している　b　実施していない

問８-2.（問８-1 でｂを選択した方のみお答えください。）発達障がいのある生徒の保護者に対して、特別な面談や保護者会なるものが必要であるとお考えですか。

a　必要である　b　必要でない

問９．　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の保護者対応において、苦労している点についてお答えください。（複数回答可）

a　障がい特性を受け入れてくれない　b　過剰な支援を求めてくる
c　現状のスキル以上のものを求めてくる　d　子どもに対する無関心や愛情不足
e　その他（具体的に　　）

問 10-1. 発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたって、教員の研修等を実施していますか。

a　実施している　b　実施していない

問 10-2. 発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたっての教員の研修会や講師派遣による研修会があれば希望されますか。

a　希望する　b　希望しない

問 11.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたって、教員の配置等の工夫はしていますか。また、工夫している場合は、具体的な工夫点についてご記入ください。

a　工夫している　b　工夫していない

問 12.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒を受け入れるにあたって、他の機関との連携をしていますか。（複数回答可）

a　教育機関　b　医療機関　c　行政
d　その他（具体的に　　）

問 13．　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の卒業後の進路決定について、平成 27 年度卒業生の場合はどのような割合になっていますか。

a　就職（　　）％　b　進学（　　）％　c　未決定（　　）％
d　その他（　　）％　（※差し支えなければ具体的に　　）

問 14．　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の卒業後の進路指導に関して、貴校のスタンスについて特別なものがあればご記入ください。

〔　　〕

問 15.　障がいのある方としての就労の道筋で進路決定をさせたケースはありますか。

a　ある　b　ない

問 16.　発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の進路決定において苦労された点はどのようなことですか。（複数回答可）

a 進路指導の方法がわからない　b 受入先の情報がない　c 進路担当者の配置が厳しい
d　その他（具体的に　　）

問 17.　今後、発達障がいのある生徒及び特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしていきますか。

a　受け入れをしていく　b　受け入れをしない　c　どちらとも言えない

ご協力ありがとうございます。
11 月 24 日（木）までに **返却用 FAX 0796ー24ー2282** へご送付ください。

【お願い】貴校での具体的な支援方法や実践内容がわかる参考資料や、実践事例のご報告等がございましたら、同封の返信用封筒に封入いただき、ご提供いただけましたら幸いです。

第３章　公開授業の報告及びその成果

３－１　公開授業の報告

＜目　　的＞

現在全国の高等専修学校においては、各分野の特性を生かし、職業教育の中に目的意識を持つ生徒に加え、障がいのある生徒に対しても、いち早く柔軟に受け入れ、職業教育と人間教育を通して、多くの生徒の人間的成長に大きな成果をあげている事実がある。その実践の中で欠かせないのが混合教育（インクルーシブ教育）である。これは、昨年度の本校の事業が大岡学園高等専修学校の事業と連携した「発達障がいのある生徒等の受け入れの現状及び教育支援体制に関する実態調査」からも障がいある生徒が障がいのない生徒と同環境で学んでいる学校が 96.2％となっていたことからもわかる。この公開授業は、本校が 30 年間取り組んできた混合教育（インクルーシブ教育）、人間教育の実際を公開することによって、他校で取り組まれている教育環境や当該生徒への教育支援において参考となる情報提供を行う場とし、多くの学校にとって有益な機会とする。同時に本事業の取り組みの実証講座として位置付けその成果を表す場としていく。

＜開催日時＞

平成 28 年 9月 24日（土）　9:45 ～ 16:00

＜参加者数＞　85人

・文部科学省　生涯学習政策局　生涯学習推進課
　専修学校教育振興室室長補佐　星川　正樹氏
・東京都生活文化局私学部　私学振興課長　蜂谷　典子氏
・全国特別支援教育推進連盟　理事長　大南　英明氏
・NPO 高等専修教育支援協会　理事長　堀居　英治氏
・NPO 日本教育カウンセラー協会　池場　望氏
・元帝京大学教授　関本　惠一氏
・全国高等専修学校協会会員校教員
・公立中学校教員及び保護者
・全国及び東京都専修学校関連団体、企業等

＜次　　第＞

◆全 体 会　9 時 45 分～ 11 時 20 分　　《地下講堂》
　挨　　拶
　学校紹介
　基調講演　「日本のインクルーシブ教育の現状と展望」
　　～共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進～
　　講師：全国特別支援教育推進連盟　理事長　大南　英明 氏

◆公開授業　11 時 25 分～ 12 時 15 分　　《各 教 室》
　第１学年（普通教科）　　第２学年（専門教科）　　第３学年（HR）

◆昼　　食　12 時 20 分～ 13 時００分　　《地下講堂》

◆実践報告　13 時 15 分～ 14 時 45 分　　《地下講堂》
　「本校の混合教育（インクルーシブ教育）の実践報告」
　卒業生たちによるパネルディスカッション

◆昼　　食　12 時 20 分～ 13 時００分　　《地下講堂》

◆実践報告　13 時 15 分～ 14 時 45 分　　《地下講堂》
　「本校の混合教育（インクルーシブ教育）の実践報告」
　卒業生たちによるパネルディスカッション

◆分 科 会　14 時 50 分～ 16 時 00 分　　《各 教 室》
　・発達障がい　　・障がいのある生徒の進路指導
　・混合教育とは　　・障がいのある生徒の教育支援

＜内　容＞

【基調講演】

日本のインクルーシブ教育の現状と展望
～共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進～
講師：全国特別支援教育推進連盟　理事長　大南　英明 氏

【講演資料】

１．我が国の障害児の教育の変遷（昭和 40 年代以降）

（１）東京都の障害児希望者全員就学　　昭和 49 年 4 月
（２）養護学校教育の義務制の実施　　昭和 54 年 4 月
　就学猶予・免除 (学校教育法第 18 条) の減少
（３）養護学校高等部の整備と生徒数の増大
　普通教室の不足
（４）「交流」教育を盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領に規定　　昭和 54 年 7 月
　片思いの交流
（５）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、及び養護学校の教育課程の基準の改善について」教育課程審議会答申　　平成 10 年 7 月
　これまでは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教育課程の改善が終わった後に盲学校、聾学校、養護学校の教育課程の改善が始まる。
（６）平成 10 年版小学校、中学校、高等学校の学習指導要領に「交流」が規定された。そして、幼稚園教育要領解説に交流について解説が、小学校、中学校の学習指導要領解説総則編に特殊学級、通級による指導の教育課程、障害のある児童（生徒）の指導、交流についての解説が、高等学校学習指導要領解説総則編には、障害のある生徒の指導、交流についての解説が掲載された。
（７）「21 世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）　　平成 13 年 1 月
　特別支援教育と言う用語が初めて使われた
（８）「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」　　平成 15 年 3 月
　特別支援教育コーディネーターの指名
　個別の教育支援計画の策定
（９）「発達障害のある児童生徒への支援について」（通知）　　平成 17 年 4 月1日
　「盲・聾・養護学校、小学校等の特殊学級及び通級による指導においては、自閉症の幼児児童生徒に対する適切な指導の推進を図ること。その際には、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成を進めること。」文部科学省が文部省時代を含め、自閉症の児童生徒に対する指導の推進について通知の中で述べたのは初めてのことである。
（10）中央教育審議会「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」答申　　平成 17 年 12 月
（11）学校教育法施行規則の改正
　通級による指導の対象の拡大
　自閉症を情緒障害から分離
（12）学校教育法の改正　　平成 19 年 4 月
　第 72 条　特別支援学校の目的
　第 74 条　特別支援学校のセンター的機能
　第 81 条　特別支援教育の基本及び特別支援学級の設置

（13）障害者基本法の改正により「交流及び共同学習」についての規定が設けられ、現行の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の学習指導要領に「交流及び共同学習」が規定された。

（14）「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」中央教育審議会初等中等教育分科会　　平成 24 年 7月23日

2. 日本のインクルーシブ教育の現状

（1）学校教育法　第 81 条の規定

①幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校においては、次項各号のいずれかに該当する幼児、児童及び生徒その他教育上特別の支援を必要とする幼児、児童及び及び生徒に対し、文部科学大臣の定めるところにより、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うものとする。

②小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校には、次の各号のいずれかに該当する児童及び生徒のために、特別支援学級を置くことができる。

1. 知的障害者　　2. 肢体不自由者　　3. 身体虚弱者　　4. 弱視者　　5. 難聴者
6. その他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当なもの

（2）特別支援教育の現状　　別紙１

（3）学校における支援体制の整備の状況　　別紙２

（4）「基礎的環境整備」と「合理的配慮」

①「基礎的環境整備」：教室の確保等

②「合理的配慮」：一人一人の幼児、児童、生徒に必要な配慮　　別紙３

3. 日本のインクルーシブ教育の展望

（1）連続した多様な学習の場の設定

小　学　校　等		特別支援学校	
幼稚園		幼稚部	
小学校	通常の学級 通級による指導 （特別支援教室） 特別支援学級	小学部	普通学級 重複障害学級
中学校	通常の学級 通級による指導 （特別支援教室） 特別支援学級	中学部	普通学級 重複障害学級
高等学校	通常の学級 （通級による指導）	高等部	普通学級 重複障害学級 高等支援学校専攻科

（2）特別支援教室

◎巡回による指導（児童生徒が動くことから教員が動くシステムへ）

○東京都 平成 28 年度から全都の小学校でできるところから実施

○　　平成 30 年度小学校全校で実施

○　　平成 28 年度から中学校でモデル事業を実施

◎特別支援教室：一日の学校生活の多くの時間を過ごす教室
　　小学校、中学校に籍を置く
　　構想の段階で具体化されていない（反対意見が強い）

○特別支援学級の児童生徒の学籍は、特別支援学級にあり、設置されている小学校、中学校にはない。

（3）発達障害等障害のある幼児、児童、生徒の指導に対する教員の資質の向上

○教員免許状の内容　発達障害等について医学、心理学、教育学等の視点からの講義、演習の単位を増やし、必修とする。

（4）学習指導要領の一本化（現行の法律では一本化はできない）

幼稚園教育要領　　○「自立活動」を加える

小学校学習指導要領　　○「指導計画の作成と内容の取扱い」の中に

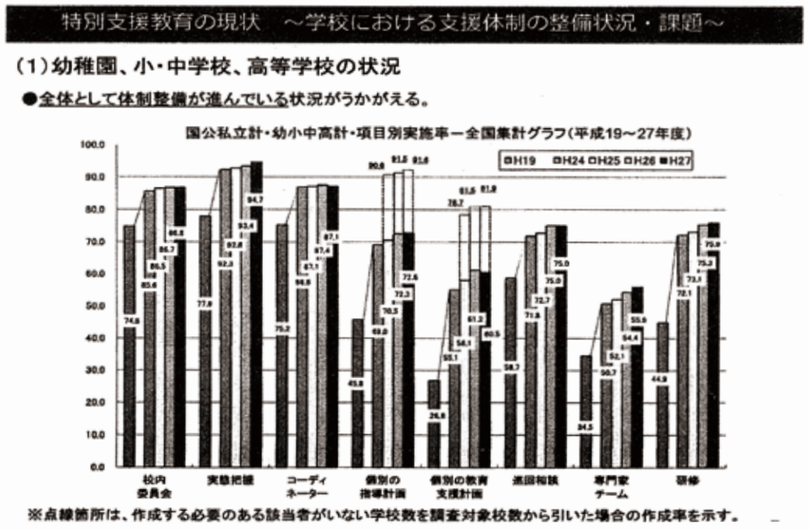
中学校学習指導要領　　障害に即した配慮事項を記述する

高等学校学習指導要領



基調講演の様子

別紙 1.

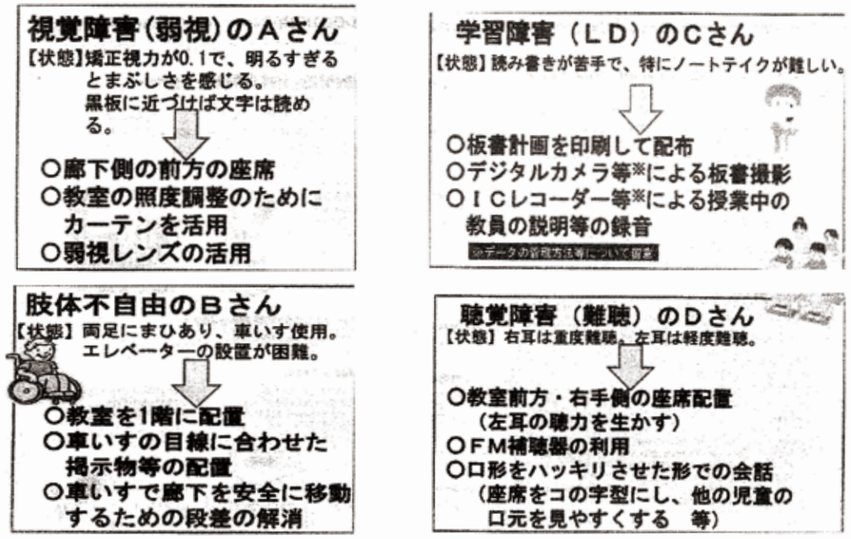


別紙 2.



別紙 3.

合理的配慮の例

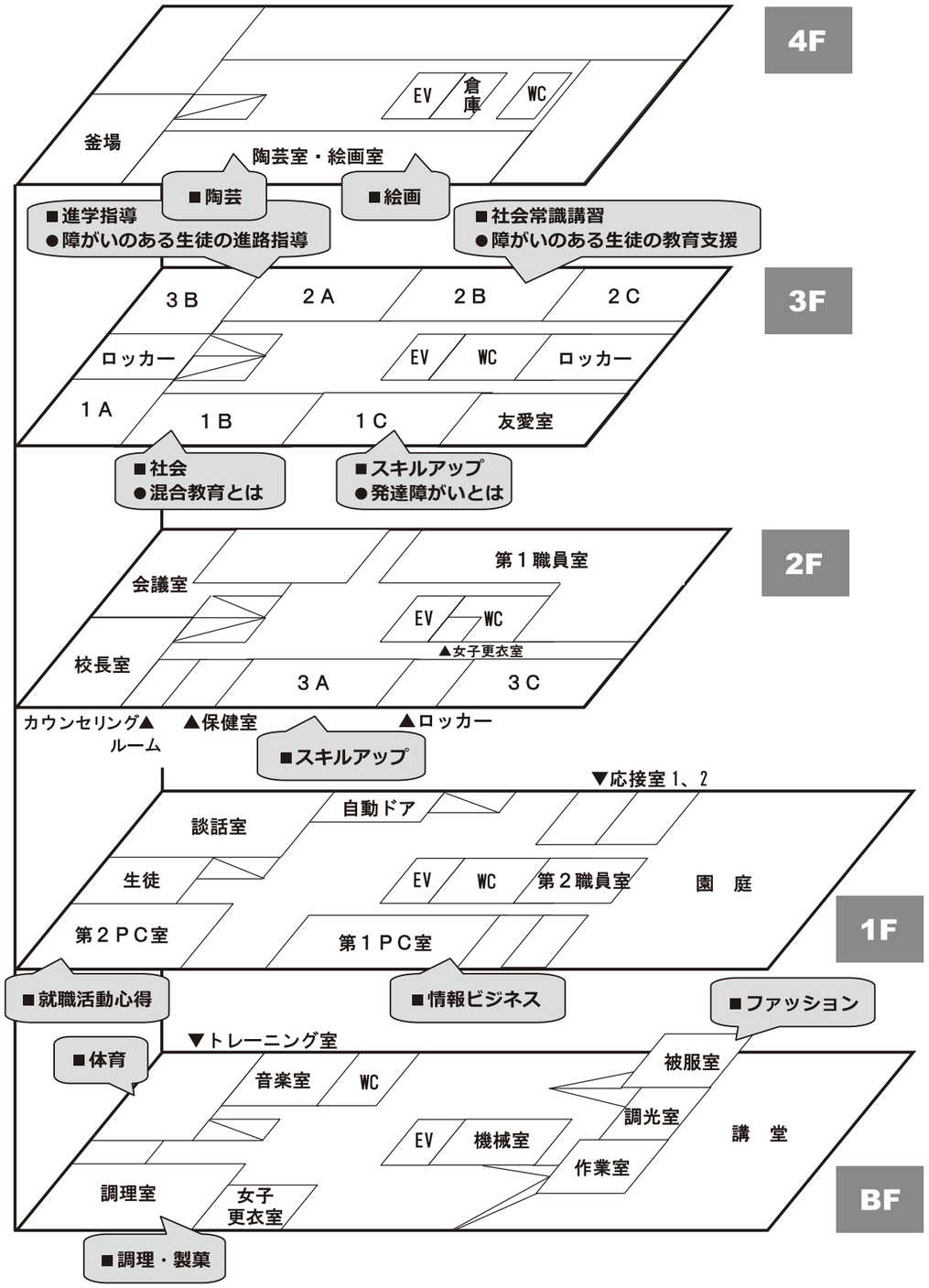


【公開授業】

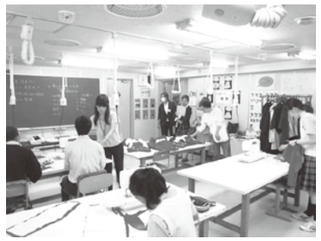
クラス	科　目	授業者	内　容	場　所
１Ａ	数　学	木田　賢一	関数とグラフ	３Ｆ １Ａ教室
１Ｂ	社　会	中田　重夫	主権者としての心得と選挙	３Ｆ １Ｂ教室
２年専門実技	絵　画	安藤　晴啓	アクリル画、自由制作	４Ｆ　美術室
	陶　芸	壽山　博道 山浦　弘嵩	飯茶碗	４Ｆ　陶芸室
	調理・製菓	杉林　優子 加藤　啓治	パーティー料理	地下　調理室
	ファッション	野村　侑花	ベスト製作	地下　被服室
	情報ビジネス	久保　幸治	エクセルの活用１	1F 第１コンピュータ室
	体　育	清水　貴秀	ウエイトトレーニング	地下トレーニング室
３年	Ｈ　Ｒ	松丸　力	進学指導（健常児）	３Ｆ ２Ａ教室
		天宮　一大	就職活動心得（健常児）	1F 第２コンピュータ室
		志村　順	社会常識講習（自閉症児）	３Ｆ ２Ｂ教室
１Ｃ	スキルアップ	荻村　寿浩 廣本　郁子	作業における基本技能（計数、丁合、封入等）	３Ｆ １Ｃ教室
３Ｃ	スキルアップ	篠原　聡 鈴木　沙蘭	丁合・封入作業	２Ｆ ３Ａ教室

公　開　授　業　会　場　図

※吹き出し内　■：授業　●：分科会



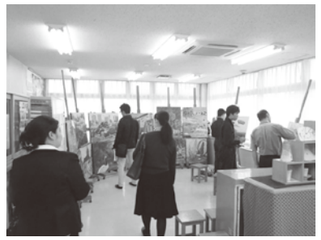

数学「関数とグラフ」


ファション「ベスト製作」


HR「進学指導（健常児）」


社会「主権者としての心得と選挙」


HR「就職活動心得（健常児）」


絵画「アクリル画、自由制作」


情報ビジネス「エクセルの活用 1」


HR「社会常識講習（自閉症児）」


陶芸「飯茶碗」


体育「ウェイトトレーニング」


スキルアップ１年「丁合・封入作業」


調理・製菓「パーティー料理」


スキルアップ３年
「作業における基本技能（計算・丁合・封入等）」

【実践報告】

「武蔵野東高等専修学校の混合教育（インクルーシブ教育）の実践報告」

―卒業生たちによるパネルディスカッション―

《パネルディスカッションの流れ》

（1）自己紹介：

現在の職業・役職　在籍時の状況　在校時の思い出等

・コーディネーター及び元担任：天宮一大（教育統括部長）

・サブコーディネーター及び元担任：今城慎一郎（進路指導副部長）

・パネリスト及び 21 期卒業生：清水貴秀（２年Ａ組担任）

・　　〃　　：杉林優子（１年Ａ組副担任）

・　　〃　　：齋藤　森（ブレーンバンク 株式会社）

・　　〃　６期卒業生：関　孝治（株式会社 ナルミヤ・ワンパ）

・　　〃　23 期卒業生：市村雅徳（　　〃　　）

（2）インクルーシブ教育（混合教育について）

Q「入学時の混合教育に対する驚き」

（3）教師になった卒業生

Q「入学したころの私」

Q「元担任から見た貴秀・杉林」

（4）インパクトのある混合教育の思い出と今に繋がる経験

Q「在学中のエピソード」

Q「教師になった同級生について」

（5）ナルミヤという会社で働く卒業生

Q「ナルミヤワンパとは」

Q「ナルミヤという企業との連携」

Q「今城先生から見た、高校生の関さん」

Q「関さんから見た、教師の今城先生」

Q「職場での関さん」

Q「仕事場の混合教育？」

Q「混合教育が成り立つ職場

（6）まとめ


パネルディスカッションの様子①



パネルディスカッションの様子②

《パネルディスカッションの概要》

在学中、混合教育（インクルーシブ教育）の影響を強く受け、本校卒業後にもその教育を実践、継承している卒業生たちと元担任が、在学中のエピソードや現在の実践事例を紹介した。パネリストの卒業生たちには健常児と自閉症児の両タイプを招いた。入学当初のお互いの驚きや衝撃、その後の交友の深まり、様々な関わりの積み重ねがあったからこそのお互いの理解が得られたという話しから始まり、自分自身の将来の夢とその夢の実現のための苦労話等を語ってもらった。清水、杉林の両名は本校に教員として戻り、混合教育（インクリーシブ教育）の実践者として夢を叶え、関氏は一般企業において本校の障がいのある生徒を受け入れてくださり、職場において混合教育（インクルーシブ教育）を実践している。

彼らだけではなく、多くの卒業生が、入学時の障がいのある仲間との出会いから自分自身の将来の夢を見出し、実社会の中で混合教育（インクルーシブ教育）を実践している。

【分科会】
分科会名：発達障がいとは
コーディネーター兼報告者：計野浩一郎　　書記：木田賢一、藤島美乃里
出席者数：17 名

報　告

～発達障がいとは～

1．ノーマライゼイション
2．障がい者を取り巻く現状　ー国内法の改正等についてー
- 国連・障害者権利条約批准に向けた国内法の整備
- 改正障害者基本法　・障害者総合支援法
- 障害者虐待防止　・障害者差別解消法　等

3．通常の学級に在籍する発達障がいの可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果
4．発達障害者支援法について
- 何故必要だったのか？　・「発達障がい」とは？
- 発達障害支援法の改正　等

5．LD、ADHD、PDD の診断基準と特性
- それぞれの定義
- DSMーIVーTR から DSMー５へ　等

6．自閉症スペクトラムをはじめとした発達障がいの認知特性
- 自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害
- ASD 者の認知的特徴仮説　等



7．心の動きー人との関わり（対人コミュニケーション）ー
8．心の理論、語用論について
9．心の働きー常同行動、こだわりー

（配布資料等）
- レジュメ「発達障がいとは」
- DVD「自閉症の子どもたちーバリアフリーを目指してー」
（社団法人　日本自閉症協会）

分科会名：障がいのある生徒の進路指導
コーディネーター兼報告者：今城慎一郎　書記：橘川直人、和田忠雄
出席者数：19 名

報　告

・障がいのある生徒の進路指導に対しての質疑応答形式で進めていった。
①折戸宏次先生（大岡学園高等専修学校）
②大竹嘉明先生（大竹高等専修学校）
③藤原浩二先生（苫小牧高等商業学校）
３名の先生から質問をいただき、答えさせていただいた。
軽度の発達障がいと思われる生徒やグレーゾーンの生徒の対応保護者との関わりという内容であった。

・全国特別支援教育推進連盟　理事長　大南英明先生より
都立特別支援学校では、軽度の方を集めた職業学科、卒業後就労継続支援Ｂ型事業所を目指すグループ、生活介護事業を目指すグループという形で分けられているが、その判断は早すぎるのではないか？ Ｂ型グループに在籍の方でも企業に行ける可能性がある方もいるし、生活介護のグループでもＢ型を目指せる方もいる。数多くの経験をさせてあげることが非常に重要。
職業能力開発校も選択肢の一つであるが、その生徒に適する訓練内容があるかどうかが大切。また、第一次産業への就職や障がい福祉サービスを受ける側ではなく、提供する側に就ける方もいるのではないか？
・NPO 高等専修教育支援協会　理事長　堀居英治先生より
知り合い、友人で中小企業の社長がいて、障がい者雇用について聞きたいことがあるがどこに行って聞くのが良いか？　武蔵野東学園に聞ければ良いのだが…。→まずはハローワークの専門援助窓口をお尋ねいただくのがよろしいと思う。

（配布資料）
- 平成 27 年度文部科学省委託事業成果物
「就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の確立　成果報告書」
- 平成 27 年度文部科学省委託事業成果物
「発達障害のある方々と共に歩む為に」



分科会名：混合教育とは？
コーディネーター兼報告者：松丸力　報告者：後藤司　書記：安藤晴啓
出席者数：12 名

報　告

・PP を利用して本校が展開している混合教育の説明を行った。
①本校の混合教育概要説明
- 武蔵野東学園とは
- 本校在籍生徒数（健常児、自閉症児割合）
- 生徒の特色
- 本校の混合教育の特色
  - 専門コース
  - 部活動
  - 諸行事

  } 環境整備
- 混合教育の根幹
- 混合教育カリキュラム※
- 情報共有・交換の重要性
- バディ総論

②バディとは
- 卒業記念 DVD より



③混合教育の実例
- 現３年生（29 期）A 組：S 君、C 組：M君
バディの様子　DVD にて解説
・M君の障がい特性　・S 君の生育歴と家庭環境

④まとめ

（配布資料）
・平成 27 年度文部科学省委託事業成果物
「職業教育と混合教育（インクルーシブ教育）の成果　成果報告書」

分科会名：障がいのある生徒への教育支援
コーディネーター兼報告者：志村順　報告者：壽山博道　書記：野村侑花
出席者数：14 名

報　　告



1．自己紹介
2．本校における障がいのある生徒の保護者へのアプローチ
　（1）保護者研修会
　　①保護者研修会とは　　②内容の説明
　（2）職場実習における実習日誌について
3．本校における障がいのある生徒への教育支援実践事例報告
　（1）校内実習
　　①校内実習の目的　　②実際の実習内容の説明　　③校内実習の様子（動画で説明）
　（2）部活動
　　①本校の部活動の紹介　　②ラグビー部の取り組みについて
　　③ラグビー部活動内容の報告
　　④ラグビー部における障がいのある生徒への支援の実践報告
　　※スライドと動画で説明
4．質疑応答

（配布資料）

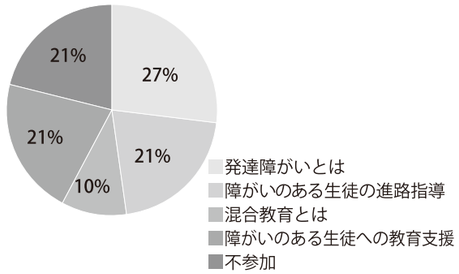
・平成 27 年度文部科学省委託事業成果物
「就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の確立　成果報告書」

3－2　公開授業参加者へのアンケート調査から

公開授業アンケート集計結果
回収状況　52 人（回答率：61.2%）

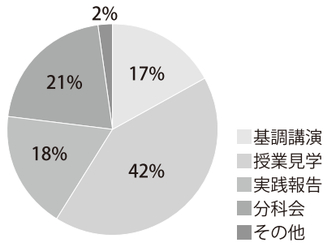
参加された分科会

a	発達障がいとは	14
b	障がいのある生徒の進路指導	11
c	混合教育とは	5
d	障がいのある生徒への教育支援	11
e	不参加	11



問１．公開授業の申し込みにあたって、ご関心のあった内容はどれですか。
（複数回答可）

a	基調講演	19
b	授業見学	46
c	実践報告	20
d	分科会	23
e	その他	2

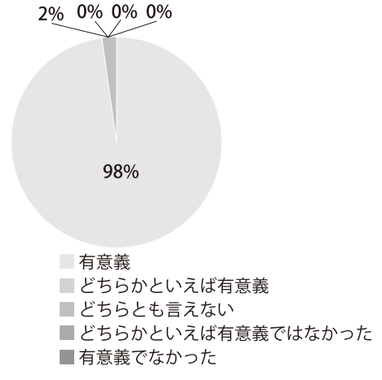


分析と考察

参加者された方々の一番の関心は「授業見学」であった。私どもも実際の生徒たちの様子や学校の雰囲気を見て、感じていただくことが説明するよりも分かり易いと考えていた。また、分科会等に参加され、直接、教員たちから実際の生の声を聞くことも本校の混合教育（インクルーシブ教育）を理解していただく一番の近道と考える。加えて、実践報告における卒業生たちの生の声も説得力がある実例だと考える。

問２．公開授業は、有意義なものでしたか。

a	有意義	52
b	どちらかといえば有意義	1
c	どちらとも言えない	0
d	どちらかといえば有意義ではなかった	0
e	有意義でなかった	0

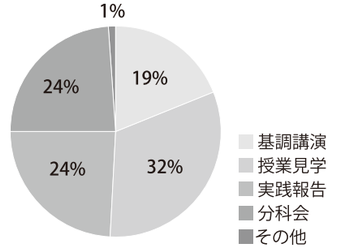


分析と考察

本校のインクルーシブ教育の実践現場を見学されたことと、疑問点を直接、教員に尋ねることができたので目的が達成できたのではないかと考えられる。

問３．本日の公開授業において、有効な情報を得られた内容はどれですか。（複数回答可）可能であれば具体的にどのような情報が有効であったか記述してください。

a	基調講演	24
b	授業見学	41
c	実践報告	30
d	分科会	30
e	その他	1



問３　記述回答

○説明が解り易く、今までは、言葉だけでしか知らなかった「発達障がい」について理解できた気がします。時間がもう少し欲しかった。
○先生方の高度な教師力に触れ、身が引き締まる思いです。大変参考になりました。
○初めて参加させていただきましたが、障がいを身近に感じることができました。健常児のみの学校ですが活かせる部分を見つけることができ、とても勉強になりました。
○授業見学は非常に勉強になりました。学校でも生かしていければと思います。３．実践報告では混合教育の重要性を見せていただききました。これは教育現場だけでなく社会全体で実践できればと思いました。ありがとうございました。
○混合教育を実際に体験された方々の現実的なお話が印象に残りました。
○授業見学では、私は情報を担当していますので、今後の授業でも生かしていける様な内容を見学させていただきました。
○障がいのある生徒の進路指導に参加させていただきました。グレーゾーンの生徒についてもお話をきけてよかったです。
○混合教育について知ることができました。障がいのある生徒への進路指導もとても参考になりました。

○グレーゾーンの生徒への就職支援の仕方、他校の状況などがとてもよく分かりました。
○１．特別支援の必要な生徒に対しての教育支援の現状と、今までのあゆみを知ることができました。
様々な関係がある先生方の日々の努力、お力により成り立っていることをより実感しました。
４．教育支援を具体的に学ぶことができ、参考になるところが多々ありました。生徒に対する声掛け等。
○生徒の姿勢の良さと、先生の取り組み。どの教科の先生も、生徒が楽しみながら、授業へ向かえる様に、あきない授業を行えていることが素晴らしく感じました。笑顔のある授業は、学習効果を上げているものと感じます。
○様々な個に対応した授業や行事等の学校生活について具体的な内容を知ることができました。
○就職が決まった生徒に対しての指導がすばらしく、参考にさせていただきたいです。
○インクルーシブ教育を学級で運営できるようにしていきたいと感じました。
○分科会では、療育手帳の取得に向けて効果的なアプローチ方法をはじめ、細かい部分の話を聞けて大変有意義でした。
○大南先生の心あたたまる具体的な話に感動しました。
教育支援…将来を見据えた教育で愛情あふれたお話を聞くことができ、ありがとうございました。
実践報告でインクルーシブという事がどのようなものか、お互いを理解し、高めあっていくすばらしい教育だと思いました。
○授業を一人一人丁寧に手を動かしたり、楽しく授業を受けていると思いました。
現在、社会人として必要な授業を行っているのは、すごいことだと思います。
○混合教育を通してお互いを尊重する、というコミュニケーションの基本を実体験で身につけているのが分かりました。授業を拝見しても、自分で考える力を根気強くご指導されているなと感じました。
○心のこもった親身な教育姿勢と教職員の皆様。
○学校と進路先の連携。
○混合教育という言葉はよく耳にしていますが、実際に見ることが少なかったため、資料やお話の中から色々聞くことができました。
○混合教育を拝見する貴重な体験ができました。ありがとうございます。
実際に現場ではどういった指導を行っているか、教諭の皆様の工夫もみられ勉強になりました。
○実践報告では生徒の意見を、分科会では実録の生徒の活動を見ることができました。
○先生の話がすごくタメになりました。ご家族の方と話をする際に使わせてもらいます。
卒業生との対話がリズムよく楽しかったです。メリハリがついていました。
○２～３年後に通年指導が高校で始まるという事に、不安を感じました。
○障害者に対する教育環境や、実践的な就労に向けた取り組みを見ることができ、教育の変遷など詳しく話して下さり非常に勉強になりました。教員の方々の熱意に圧倒されました。
○発達障がいとは、の講演で自閉症、アスペルガーなど具体的なお話で大変勉強になった。授業見学も進路指導の先生方の迫力のある指導が参考になった。
○分科会はとても有意義でした。とても勉強になりました。
○基調講演では障がい児教育への取り組みと現状を理解できよかったです。交流教育、助け合って支え合って生きていく、すばらしいと思いました。実際の授業の見学は、とても勉強になりました。私の身内にも自閉症の子供がいるので、これからも勉強させていただきたいと感じました。

○実際に混合授業がどのようなものなのか、生徒や先生方がどのような雰囲気でどのような対応をされているのか勉強になりました。実践報告では、卒業生の声を聞き、思い出や目標を大切にし、生き生きとした姿にとても感銘を受けました。ありがとうございました。
○各教室のモニターを利用した授業は視覚的教材を利用しやすいので、とても良いと思いました。
（２．授業見学）
○分科会において、知らなかった知識などを得ることをできました。
○パネルディスカッションに感動しました。卒業生と職員が一体となって混合教育に取り組んでおられ、成功している姿がとてもよく伝わってきました。
○生徒達の支え合う成長。
○スキルアップ授業見学、混合教育についてなど。生徒たちの一生懸命さと真剣な学生たちの授業風景。
○生徒の皆さんが真剣に取り組んでいる。あいさつ、マナーが良い。３年就職活動、初めての人に自分の話がきちんとできる。社会常識での意見をはっきり言えること。素晴しいです。
○昭和 54 年以前のお話。
○少人数のきめ細やかな授業が展開されており。何よりも、生徒たちの前向きで真剣な授業に取り組む姿勢が素晴らしかったです。
○時代の先端をいく混合教育の先鋒として、貴校の教育実践が各校の今後の教育活動をリードしていくことと思います。
講演しか参加できず残念でしたが、よい機会になりました。授業を特に見たかったです。
○作業ポイントの教え方
○基調講演から授業見学までテーマが一貫しており、注目すべき点が明確で、とても勉強になりました。
３年生の就職活動心得の授業を受けられる生徒たちはとても幸せだと思いました。
私自身、生徒になったつもりで聞き入ってしまいました。
○先生方が生徒一人一人をとても良く見ていて、かつそれを言葉できちんと伝えており、生徒との信頼関係を感じた。メリハリのある指導、生徒の役割と先生方が手を貸す点が明確になっていることで生徒は活動に集中でき、迷わずに動くことができていた。
○基調講演では、日本の特別支援教育の歴史・現状・展望を経験をふまえてお話しいただき、大変参考になりました。武蔵野東高等専修学校の混合教育は、歴史的にみても独特なものであったと再認識しました。授業公開では、以前センターに来ていた子どもたちが、すっかり成長して作業等をしている姿に感心しました。ありがとうございました。
○午前中のみ参加になってしまい申し訳ありません。
クラス毎、授業の内容や先生方の声のかけ方、子どもたちの授業へのむかい方、とても参考になりました。また機会があれば見させていただきたいです。ありがとうございました。
○子どもたちのいきいきとした様子が見られた。
○インクルーシブ教育の大切さと、難しさを学びました。生徒のみなさんに興味をもたせ、授業を進めていくところが、とてもすごく勉強になりました。ありがとうございました。
○社会に出ること、就職することを意識して活動しているのを見て、今、幼や小で必要なスキルについてとても考えさせられました。
○授業見学では、生徒一人一人きめ細かいご指導をされている印象を受けました。パネルディスカッションでは、混合教育を受けた卒業生がどのように社会で仕事をされているか、在学中のエピソードなど盛りだくさんの内容でした。分科会では、発達障がいについて国内法の整備、事例、問題点など分かりやすく、もうすこし時間をかけて講義を受けたかったです。

○各項にてインクルーシブ教育の実態、具体的な手段や課題を知ることができました。幼児のときから心のバリアを持たない教育、バディは双方が成長するもの、バディはボランティアではないという生徒のエピソードが印象に残りました。

分析と考察

授業、実践報告で実際に障がいある生徒と健常な生徒の関わりの様子とそれを導く教員の様子や事例を見ていただき、机上や文献だけでは得ることのできない生の声を聞いていただいたことと共に基調講演や分科会において基本的、具体的な情報から専門的な情報を提供させていただいた。それによって混合教育（インクルーシブ教育）のポイントとなることがらを見て聞いて学んでいただいたと考える。障がいある生徒と健常な生徒がお互いを理解し、高め合うこと、様々なケースに応じた支援の仕方や度合い、指導の工夫等、できる限りの情報を持ち帰っていただけたことが記述から読み取れる。

問４．その他、お気づきになったことがございましたらお書きください。

○公開授業に参加させていただく度に、自分の力量や、本校の先生方の力量が、果たして貴校の先生方と対等なのか？心配になります。明日からの目標ができ、自身を律する良い機会となっております。今後もご指導の程よろしくお願いします。本日はありがとうございました。
○ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。
○大変貴重なお話等聞くことができました。ありがとうございました。
○本日はありがとうございました。
○今日聞けたことを今後に生かしていきたいです。ありがとうございました。
○校内が非常にきれいに清掃されており、今回の会の準備が良くされていたので、感心いたしました。
○今日は、ありがとうございました。今後にいかしていきたいと思います。
○本日は大変お世話になりありがとうございました。
○３名の先生方の進行は素晴らしいものでした。本校は同じ環境ではありませんが、勉強になることも多く感じられました。武蔵野東高等専修学校には〝つながり〟が強く感じられ、良い環境づくりができる様、本校にも取り入れていきたいです。
○大変勉強になりました。ありがとうございました。
○校内がとてもきれいで関心しました。また､とても素直な生徒ばかりで指導の一助となりました。
○昼食時の生徒さんのお茶の接客が非常によくうれしかった。言葉遣いやマナー等、私自身反省させられました。心配りがとても良いと思いました。
○公開授業は今回で２回目ですが、貴重なお時間をありがとうございます。
○今回、初めて公開授業に参加させていただきました。御校での学校生活を経て、生徒の皆さんが自立し、成長して行く様子が、ありありと肌で感じることができました。先生方の熱心なご指導、すみずみまで行き届いてる清掃。一日一日の積み重ねが本当に大切なんだと実感しました。現在、高校生の担当をしておりますが、改めて生徒と丁寧に向き合って、共に成長していきたいと思いました。公開授業開催にご尽力頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。
○先生方の熱意があって生徒の皆さんが楽しそうにしているのかなと感銘を受けました。
ありがとうございます。
○実際にバディとして動いているところが見られたらよかったかなぁと思いました。
分科会で、生徒さんの映像を見させていただいたのですが、先生方がすごく優しい表情で見られていたのが印象的でした。お忙しい中、ありがとうございました。
○大変、いい公開授業になりました。ありがとうございました。

○申し込みの期限切れや、当日の分科会の急な変更に対応していただき、ありがとうございます。清水先生、渡辺先生はじめ諸先生方、ありがとうございました。また、今後ともよろしくお願いたします。
○施設・設備の充実。教員数の充実。
○ありがとうございました。
○実践報告でのナルミヤで働いている卒業生の方は発達障がいではなく健常者に入るのではと思えました。様々なことで大変勉強になりました。ありがとうございました。
○本日はありがとうございました。先生方の生徒と向き合う姿や校内の掲示等、とても参考になりました。真剣に授業に取り組む生徒の姿に感動しました。
○感動しました。ありがとうございました。
○生徒の皆さんが明るく、元気がいいのでおどろきました（先生方の日頃の教育効果であろうと思います)。実際にはとても難しいと思うのですが、混合教育の素晴らしさを、昼食時の映像で深く感じました。今日はありがとうございました。
○とっても有意義な内容でした。個人的にもいろいろ考えさせられたら今後自分の学校生活（授業、学生との関わり）に役に立つと考えました。
○個々の生徒の特性に合わせ、寄り添い、教育をしていると思いました。とても勉強になりました。ありがとうございます。
○教職員の皆様ありがとうございました。
○先生方の日常の指導のあらわれと感動いたしました。ありがとうございました。
○次回も勉強したいです。ありがとうございます。友愛会会長も立派でした。
○午前中のみ参加させていただきました。ありがとうございました。
○貴重な会に参加させていただき、ありがとうございました。
○生徒や職員の態度がていねいで気持ちよかった。環境が整っていた。
○クラスを見学している際に、簡単な説明（自閉症児や健常児は～で、今～している。等）をしていただけることがあり、とても分かりやすかったです。ありがとうございました。
○初めて公開授業に参加させていただき、混合教育についての必要性や理解がより一層深まりました。生徒との接し方やコミュニケーションの重要性を再認識することができ、教わったことを生徒指導に役立てたいです。ありがとうございました。
○混合教育の実践ももとより、この催しをできることがすばらしいと実感しました。先生方の熱い気持ちがあってこそのことだと、今回は特にそれを感じさせられました。

【アンケート調査全般を通して】

障がいのある生徒と健常な生徒が実際にどのように同じ環境で学んでいるのかに皆さん関心を持たれていたと思われる。障がいのある生徒への配慮、支援の仕方や度合い、また、どのように健常児と関わりを持たせているのかを実際に目の当たりにして、参考にされた方がほとんどであった。「最も関心のあった内容」や「有効な情報を得られた内容」を問う質問の回答で「授業見学」と答えた方が多かった理由がそこにあると考える。混合教育（インクルーシブ教育）の実践現場の雰囲気を見て、感じていただき、その温かさをご理解していただけたのであれば幸いである。

分科会の各テーマも含めて、実際に持ち帰っていただいた情報を活用していただく際のポイントとなる事柄であるが、障がい特性の理解や健常な生徒の平均的な成長過程の理解が不十分であると、形だけ、名ばかりのインクルーシブ教育になりかねないか、問題点の先送りになってしまう恐れもあると考える。障がいのある方と無い方の最初のぶつかり合いを経て、初めて互いの垣根が取り除かれ、理解が始まることを知っていただきたい。保護者同士の理解協力、少しずつの歩み寄りや調整等、お互いの個性を見極めて、それぞれのケースに適した支援やフォローが不可欠である。

大人や周囲でお膳立てした上辺だけの混合教育（インクルーシブ教育）ではその場しのぎや混合教育（インクルーシブ教育）をやっているという事実のみの表面的な関わりのみで終わってしまう。さらには、なぜ混合教育（インクルーシブ教育）が必要なのか？　混合教育（インクルーシブ教育）を経てどのようにお互いが変わっていくのか？また、そのゴールはどこにあるのか？等を知る必要もある。見通しをつけ、先行きを明確にした上で、混合教育（インクルーシブ教育）を展開していくと逆算しながらの指導がし易くなる。

本校の実践とその後の実社会の中でどのようにどれくらい生き易く生活していくか、相互理解を深めていくことが、今後のテーマではないかと考える。

平成 28 年度　学校法人 武蔵野東学園　武蔵野東高等専修学校

「混合教育（インクルーシブ教育）の実践報告」

第 10 回　公開授業　アンケート

本日はご多忙の中、本校の公開授業にご参加いただき、誠にありがとうございます。混合教育の（インクルーシブ教育）の更なる発展・普及に向けまして、ご参加いただいた皆様からご意見をいただきたく、以下のアンケートにご回答いただきますようお願い申し上げます。

ご所属：　　**お名前：**

参加された分科会名：以下の該当する分科会名に○をつけてください。
（発達障がいとは・障がいのある生徒の進路指導・混合教育とは・障がいのある生徒への教育支援）

問１．公開授業の申し込みにあたって、ご関心のあった内容はどれですか？以下の該当する項目の番号に○をつけてください。（複数回答可）

①基調講演　②授業見学　③実践報告　④分科会　⑤その他（　　）

問２．公開授業は、有意義なものでしたか？以下の該当する項目に○をつけてください。

①有意義　②どちらかといえば有意義　③どちらとも言えない
④どちらかといえば有意義ではなかった　⑤有意義ではなかった

問３．本日の公開授業において、有効な情報を得られた内容はどれですか？以下の該当する項目の番号に○をつけてください。（複数回答可）また、可能であれば具体的にどのような情報が有効であったかを記述してください。

①基調講演　②授業見学　③実践報告　④分科会　⑤その他（　　）

具体的に

（　　）

問４．その他、お気づきになったことがございましたらお書きください。

（　　）

ご協力いただき、ありがとうございました。

第 4 章　障害のある人への理解教育のための取り組み

4ー1　本校で学ぶ生徒たちへのアンケート調査から

【アンケート実施の主旨】

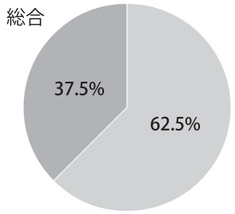
障害のある人への理解教育のための教材開発を進めていくにあたって、実際に混合教育の環境下にある本校生徒の、在学中の心情変化や将来の目標設定が、どの時期からどの様に変わっているのか？を把握するため、まずは学内でのアンケートを実施した。実施時期については、1 年生の変化を把握するために、入学直後は避け、ある程度学校生活に慣れてきた 12 月に実施することとした。

アンケート対象生徒数（健常児）

学年	1 年	2 年	3 年
人数	15	18	23
合計	56		

1. 入学前に、障害のある人と関わった経験はありますか？

1 年		2 年		3 年		総合	
ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
66.7%	33.3%	61.1%	38.9%	60.9%	39.1%	62.5%	37.5%



各学年共「ある」と答えた生徒はおよそ 60%。この結果は、他校において同様の質問をした場合、同じような数値が出てくることが予想される。但し、関わったと言っても、アンケートの生徒の答えにあるように、関わりとしてはそれほど直接的ではなく「同じクラス内にいた」とか「一緒に行事に参加した」という程度であり、深く関わった経験のある生徒は殆どいない（兄弟や親戚がそうである場合を除く）のが現状である。

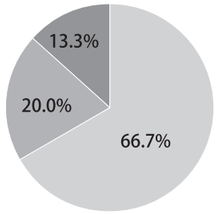
○あると答えた場合、具体的にどのような関わりがありましたか？

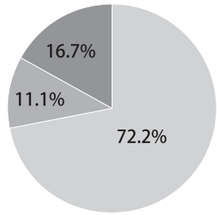
・小学校の時に給食を一緒に食べたり、少し遊んだりしていた。
・近所に住んでいた。
・中学校の時に、一緒に勉強をしたりしたが（クラスメート）、少し話をしただけで深くは関わっていない。
・小、中の学校行事で交流があった。
・叔母が障害をもっていた。あまり話はしていない。
・アスペルガーの子がいた。彼はびっくりすると大声を出す子でした。頭はすごく良かったです。

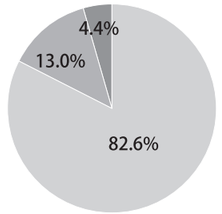
・同じ中学でよく体育を休んでいる障害のある人がいた。私もよく体育を休んで いたので少し話すこともあった。
・父の知り合いが、障害のある人などが参加するイベントをしていてそこに参加していた。
・双子の兄　叔母。
・小学校の時すずかけ学級というものがあり、そこで一緒に遊んだりしていました。
・小学校から、特別支援学級の子たちと、給食を食べたり遊んだりした。（ごくたまに）
・双子の弟が障害を持っており、その弟の友達と少しだけだが接したことがある。
・中学時代、クラスに障害を持った人がいた。
・中学の時に行事を一緒にしたり、学校内でたまに話したりした。
・小学校の頃に障害を持った子達が祭りを開催して、その際に学校の案内等してくれた。一緒にビンゴ等をした。
・ボーイスカウトでのボランティア活動。視覚障害者マラソン大会、運動会等。
・幼、小、中と武蔵野東にいたのでその中で関わっていました。
・母親が特別支援学校関係の仕事をしているから。
・小学校の時、音楽で一緒に練習をした。同じダンスチームで話したり、教えたりした。

2. 入学後、障害のある人に対する思いが変わりましたか？

1 年			2 年			3 年		
変わった	変わらない	わからない	変わった	変わらない	わからない	変わった	変わらない	わからない
66.7%	20.0%	13.3%	72.2%	11.1%	16.7%	82.6%	13.0%	4.4%



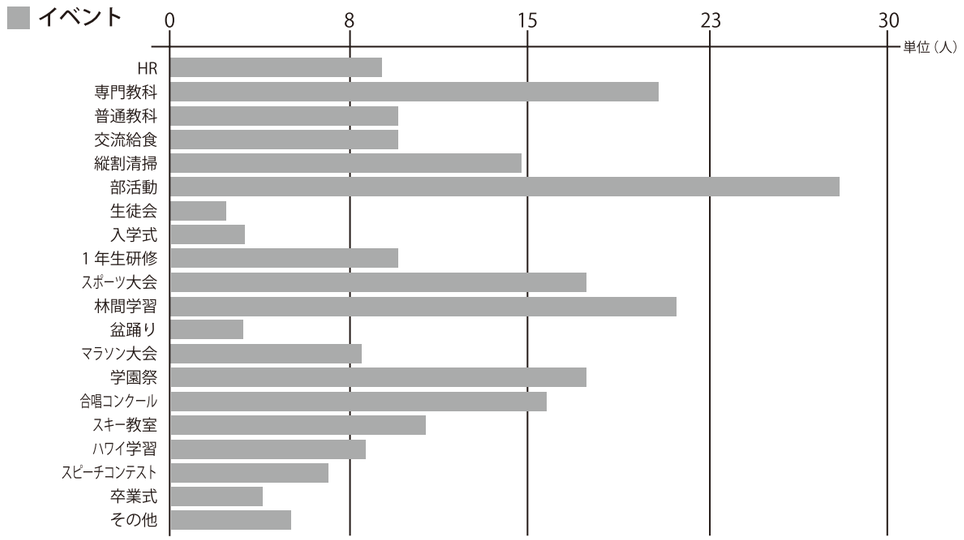




変わったという生徒の割合は、1 年生：66.7% ＜ 2 年生：72.2% ＜ 3 年生：82.6% と障害のある生徒との関わりの期間が長くなるほど確実に増えている。これは、ただ単に同じ校舎内で学んでいるから…という理由だけでなく、下記結果に見られるように、本校における数多くの行事（イベント）設定や、触れ合う機会が多いということも起因していると予測される。

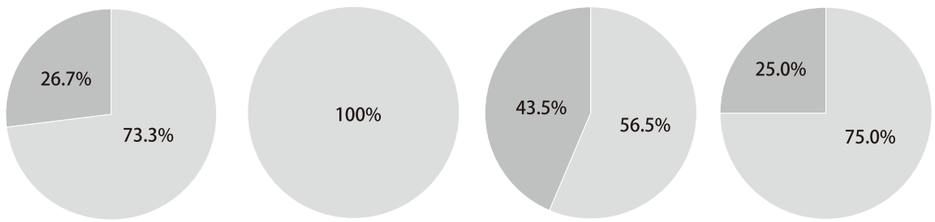
2-1.（変わったと答えた場合のみ）きっかけとなった出来事について、次の中から当てはまるものを選んでください（複数回答 OK）

ホームルーム / 専門教科の授業 / 普通教科の授業 / 交流給食 / 縦割清掃 / 部活動 / 生徒会 / 入学式 /1 年生研修 / スポーツ大会 / 林間学習 / 盆踊り / マラソン大会 / 学園祭 / 合唱コンクール / スキー教室 / ハワイ学習 / スピーチコンテスト / 卒業式 / その他



3. 今、あなたにはバディがいますか？

1年		2年		3年		総合	
いる	いない	いる	いない	いる	いない	いる	いない
73.3%	26.7%	100%	0.0%	56.5%	43.5%	75.0%	25.0%



1年生では約73%であったバディが2年生になると100%の割合になる。1年生の時点では、まだ障害に対する理解が薄く、関わり方を難しく考えている新入生に対して、無理にバディを組ませることをしない。これとは逆に3年生ではバディの割合が56%と低くなっている。社会に出る直前でもある3年生にとっては「バディ」という特別な関係であるという意識が少なくなり、自然な形の仲間、相棒、友だちという関係に発展するので、＜そばに居て当たり前＞という関係になる。そのため「バディがいますか？」の質問に「いない」と答える生徒が出てくる。正確には「いない」のではなく、「意識しなくなる」ということである。

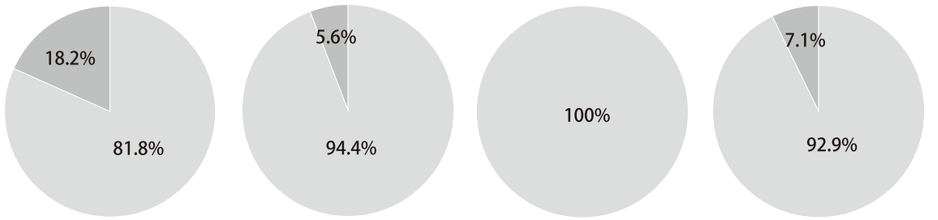
3-1.（3で「いる」と答えた人のみ）あなたにとってバディはどのような存在ですか？

- かわいくて、素直な、弟のような大切な友達。
- 自分が一人でできないことも、バディとなら乗り越えられる。心の支えになっている存在です。
- 一緒に楽しんだり、悩んだり、また教えたり教えられたりする友達のような存在。
- 大切な存在で、私が気づかない小さなことを気づいてくれる大事な子。
- 仲の良い友達であり。教えて教えられる存在。
- とても癒される存在です。調子の良い時は抱きついてきたり、駆け寄ってきたりします。とてもかわいいのですが、悪い時は暴力、暴言などが激しくなり「どうすれば落ち着いてくれるか？」とよく悩みます。
- 自分自身を変えてくれる存在。
- 自分にとって変われるきっかけとなった存在です。

- 一つひとつ教えないと何もできないので、色んなことを言ってあげている存在です。これから声をかけなくても一人でできるようになって欲しいです。
- 自分のバディはC組の中で一番話すことのできる友だちだと思っています。
- 私のバディは私と違い明るく元気な子です。そして沢山の人に平等に接することができる子です。この子と毎日一緒に過ごしていくうちに、私は変わってきている気がします。
- 最初はうまく関わることができなかったが、今はお互い理解しあえる関係になったと思う。
- 時にはムカついたり、喧嘩したりするけれど、いてくれてとても勇気づけられる時がある。
- バディが怒られた時は、自分も悩み考え。バディが誉められた時は、自分も嬉しくなれる特別な存在。
- 僕が不安そうな時や、たまにぼけっとしている時に声をかけてくれます。
- 自分にとってバディは、自分の知らないことを教えてくれる大切な存在です。
- 自分のことを何でも見破られて、自分を変えないといけなと思わせてくれる存在。
- 会話をしていて楽しいし、妹のような存在。
- 私が「このくらいでいいか…」と思って済ますところでも一生懸命やっていて、私も見習わなければならないと思います。バディが頑張っている姿を見て、私も頑張ろうと思います。
- 友だち。
- 一緒にいて楽しくなれる存在。
- 学校行事等を通して、伝えたい表現等を教えてくれたりする大切な友だち。
- 弟や家族のようなもの。
- 近くにいて当たり前の存在。
- バディという関係を通して、共に成長していくもの。
- 私にとってバディとは、友だちになれたという存在です。また、癒されるとも思う。
- 互いに学べるところもあり、バディが頑張っている様子を見ると「自分も頑張らないと…」という気持ちになる。
- 特別な友だちです。同じ学年で、少し変わったところもあるけれど、お互いに支えあって、私がサポートすることもある。私にとって大切な存在。
- 相手がいなくても「何しているんだろう？」と気になる存在。
- 学校生活をしていくうえで、大切な存在。
- 気づかされることが多くありました。
- 何かをする時一番近くで応援をしたり、励ましあう存在。

3-2.（3で「いる」と答えた人のみ）バディと過ごす中で、嬉しかったことはありますか？

1年		2年		3年		総合	
ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
81.8%	18.2%	94.4%	5.6%	100%	0.0%	92.9%	7.1%



1 年生では約 81.8%、2 年生では約 94.4% 、3 年生では 100% という数値結果は、バディと過ごす期間が長ければ当然のことであり、自身がバディに助けられた経験や、自分の存在がバディに意識してもらえるようになったからかとも考えられる。

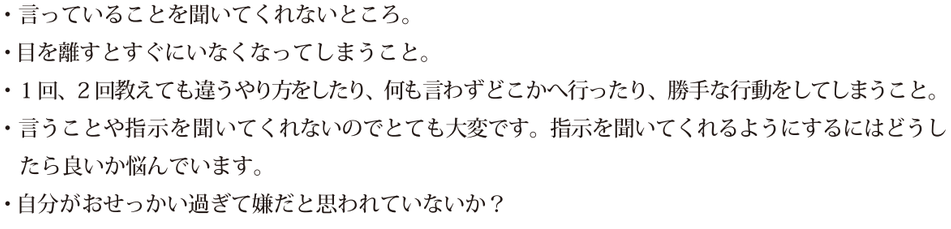
※あると答えた人は、具体的に書いてください。

・毎日同じ清掃場所にバディの友達を連れて行ってあげていたら、ある日その子が僕の腕を掴んで清掃場所へ連れて行ってくれたこと。
・最初の頃は、大きい声でしゃべらなかったのですが、今は大きい声で話してくれます。
・少しだけ自分と目を見て話せた時。
・わからないことを二人で協力して、先生に誉められた時や、1 回で理解をしてくれた時。
・家でも私のことを話すようになってくれたそうです。
・私の名前を呼びながら駆け寄ってきてくれました。仲の良い子として認識されていることが、嬉しく思いました。
・掃除の時間に「ここをなおして」と言ってもなおしてくれなかったのに、次の日にはしっかりなおしてくれたこと。
・朝清掃の時間に何をすればいいのかわからなかった時に、指示を出して教えてあげたら、素直に言うことを聞いてくれてしっかりと清掃に取り組んでくれた。
・スポーツ大会のダンス練習中、できなかったところを本番で一番上手にできたこと。
・はじめの頃はうまく挨拶もできない状態でしたが、最近は少しずつではありますが、会話が増えて嬉しかったです。
・行事や学校生活の中でちょっとした会話をした時に笑ってくれたり、何かを手伝った時などに「ありがとう」と言ってくれるようになったことなど。
・チャレンジショップでお互い文句を言うこともなく、最後まで楽しみながらできたこと。
・体調面で「大丈夫？」や「無理しないでね」等と声をかけてくれた時、とても嬉しかったです。
・「好き」と言われた時。感謝された時。
・学園祭のステージショーで、バディはダンスが苦手でたくさん練習しました。本番でしっかりと踊ってくれたことが本当に嬉しかったです。
・「これはしてはいけない」と注意した時、初めてなおしてくれた時。
・スポーツ大会の応援で一緒に大きな声を出して楽しくやれたこと。
・自分が先生に怒られた時に「大丈夫ですか？」と言ってくれたこと。
・専門教科前の着がえの時間に「今日～作るね」と話していた時、少し長めに会話ができた。
・たわいもない話しをしている時に、前よりもバディの方から多く話してくれたりすると、とても嬉しいです。
・私のバディは言葉を上手に使える子ではないのですが、してはいけないことをして「～をしちゃだめだよ」と言うと「だめだよ」とオウム返しになることがあります。最近、言葉を理解したのか「わかった」と言うことがありました。
・教室の床掃除の時、私が言わないとあまりやらなかったのですが、最近は自らやってくれていることが私は一番嬉しいです。
・ハワイ学習では、初めての土地であったにも関わらず手を叩くことやイライラすることが少なかった。3 年間の成長がわかったことが嬉しい。
・できなかったことを頑張ってやろうとしていること。自分の近くにいつもいてくれること。
・今までできなかったことが、繰り返しやっているうちにできるようになったこと。
・3 年間過ごして、初めの頃は名前で 呼んでなかったけど、いつの日からか呼び捨てで呼んでくれるようになったこと。

・返事が小さいことが多かったが、最近大きな声で返事ができるようになった。
・調理・製菓コースで、初めは一緒に作っていたものを、何も言わずとも完成させた時が嬉しかったです。
・バディの食事のペースが速くなったこと。たまに面白い一言を言って笑わせてくれたこと。
・話すことがとても苦手だったのに、たくさんの人と話そうと頑張り「話題」をふれるようになったこと。

3-3.（3 で「いる」と答えた人のみ）バディと過ごす中で、悩んでいることはありますか？

1 年		2 年		3 年		総合	
ある	ない	ある	ない	ある	ない	ある	ない
90.9%	9.1%	83.3%	16.7%	61.5%	38.5%	78.6%	21.4%



悩んでいることがあると答えた生徒は、1 年生では 90.9%、2 年生では 83.3%、3 年生になると 78.6%と数値は確実に減っている。また、学年が進むと共に、悩みの内容も明らかに変わってきている。

1 年生では「どう接すれば良いかわからない」というような自分自身にかかる悩みが多いが、3 年生になると「バディの卒業後が心配」であったり「バディの常同行動や癖が治らないまま就職してしまうことが心配」というような相手を思う悩みに変わっていく。

＜1 年生＞

・基本的にバディと一緒にいる時間は給食と清掃の時間ぐらいなので、もっと深く関われるようにするにはどうすればいいか？と考えたことがあります。
・返事が適当だったり、目を見なかったりする。
・独り言がなかなか止まらないことと、友達にちょっかいを出してしまうこと、真面目な場面の時に笑ってしまうこと。
・少し話すのが苦手で、会話が続かなかったり、嫌なことをはっきり言わないから、とまどうところもある。
・一般的な常識を教えたいけどバディのストレスになったり、混乱させたりしないように教える方法が見つからない。
・調子の悪い時の暴力や暴言の多さ、言葉の羅列等、言葉が通じなくなってしまう時、どうすれば彼女にうまく伝わるか落ちついてくれるか？と 1 日頭を悩ませる時があります。
・言っていることを聞いてくれないところ。
・目を離すとすぐにいなくなってしまうこと。
・1 回、2 回教えても違うやり方をしたり、何も言わずどこかへ行ったり、勝手な行動をしてしまうこと。
・言うことや指示を聞いてくれないのでとても大変です。指示を聞いてくれるようにするにはどうしたら良いか悩んでいます。
・自分がおせっかい過ぎて嫌だと思われていないか？

＜2 年生＞

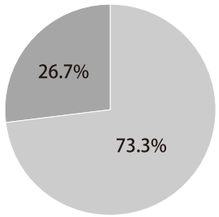
・まだあまり深い関係になれていない。もっともっと仲良くなっていきたい。
・たまに「バディだから…」という理由で一緒にいてくれるのかな？ と不安になることがあります。何故なら私と一緒にいる時よりも、他の人と一緒にいる時の方が楽しそうにしている時があるからです。
・話しをちゃんと聞いてくれなかったり、すぐ怒ってしまう時がある。思ったことを行動に出すのではなく、口でちゃんと言って欲しい。
・嫌だと思うことをやめてと言っても、私に対してやってくる。
・話してる時、目をみないことがある。
・本当に信頼されているかわからないし、何を考えているのかよくわからない。
・声が大きいので、なおして欲しいと言っているがなおしてくれない。仕事に就いた時うまくやっていけるのか心配しています。
・いつもはできないことが、怒られたらできるようになること。
・思ったことをはっきりと言うので、頭にくることがたまにあります。
・どこまでを手伝って、どこを自分でやってもらえばいいのかがまだわからない。一緒に成長するためにはどうすればよいのかわからない。
・自分の話しをまだ聞いてくれない。彼の怒りを抑えられない。
・どう関わっていくのが正しいのか？

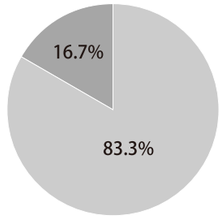
＜3年生＞

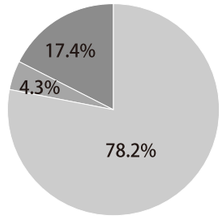
・給食を楽しんで食べてもらう方法。
・服を噛むことや、手を叩くことがまだ残ったまま卒業して、就職してしまうこと。
・卒業後楽しく人生をバディが送れるのか不安。
・前よりは話をしてくれるようになったけれど、ご飯を食べている時に一定の人としか話さない。自分の意見をあまり言えないこと。
・最近一人でずっと笑っている。
・言ってもなおらないこともあるが、どう向き合えば良いかわからないこと。
・たまに本音がわからない。

4. 障害のある友だちとの関わりによって、自分自身が変わったと思うことはありますか？

1 年			2 年			3 年		
ある	ない	わからない	ある	ない	わからない	ある	ない	わからない
73.3%	0.0%	26.7%	83.3%	0.0%	16.7%	78.3%	4.3%	17.4%







「自分自身が変わったと思う」という意識は 1 年生では 73.3%、 2 年生では 83.3% に一旦上昇するが、3 年生になると 78.2% に数値が下がる。3 年生になると「変わる」「変わらない」ということすらあまり意識しなくなり、互いに自然な距離感が生まれているからであると想像できる。これは1､2 年生の答えにはない､3 年生で「変わったことはない」という回答があることからも想像できる。

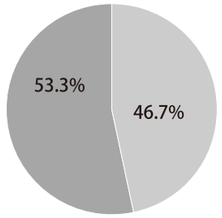
「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

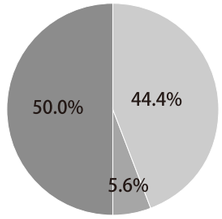
・バディに何かを説明する時は、わかりやすく具体的に説明しなければいけないので、バディの子でもわかるような話し方ができるようになったと思います。
・小、中学生の時は「何でうるさくしているの？」と思っていましたが、この学校に入ってからそれがなくなりました。
・自分だけのことではなく、周りを色々見られるようになった。
・コミュニケーションが不得意なだけで、相手がどんな人か決めつけることがなくなった。
・より伝わりやすい説明ができるようになりました。
・誰にでも優しくしたり、話すことが多くなった。
・姉弟が全員障害を持っていますが、前までは何もできないと思っていて色んな世話をしていましたが、今はなるべく一人で何でもさせるようにしています。
・周りとの関わりが変わりました。言ってはいけない言葉 (相手が傷つく言葉) を知ることができ、変われたと思います。
・色々な人に優しく接することができるようになった。
・自分のことだけを考えていると、バディを見失って危ない目にあわせてしまうので、周りを気にするようになった。
・高校に入るまでは内気で人見知りだったけれど、高校に入ってからは笑顔で明るい子に沢山出会い、自分も変われてきている気がします。
・最近心から笑えるようになった気がする。
・怒るということが減った。喜怒哀楽が出せるようになった。人の大切さがわかった。視野が少し広くなった。
・話をする時、分かりやすいような言葉に変えて話しをするようになった。相手のことをよく考えるようになった。
・障害のある人たちのために「何かやってあげなくちゃ」などという気持ちが出てきた。
・明るくなりました。少しずつですが自分の考えがポジティブになりました。人の気持ちを、より考えることができるようになったと思います。
・会話をする回数が多くなった。
・相手のことを前よりも考えるようになった。人について考えるようになった。
・色々な事に挑戦できるようになった。
・障害のことについて、多くのことを知ることができた
・今まで気にしていなかったことを気にするようになった。
・見方、考え方が変わった。
・今までは障害を持っている弟の行動パターンなどの情報を元に、弟以外の障害者を理解しようとしていたが、一人ひとり持っている個性が違うということを理解した。
・変わったとは思うが､自分ではわからない｡何が変わったか考えることはあるが難しいので答えが出ない。
・障がいに対する考え方が変わった。中学時代､障がいを持った人をばかにしていた自分が恥ずかしい。

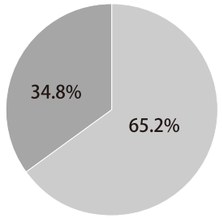
・障害のある人と関わっていくうちに、自分と似ているところがあったりすると「自分はどうだろう？本当に自分は健常なのか？」と不安になることがある。
・自分以外の人間の様子を、以前よりは見られるようになった。
・「自分も変わらなければ」という気持ちになった。
・この学校に入るまでは、駅などで障害のある人を見かけると、その場から少し離れたりしていたが、今は見かけても離れたりはしない。
・自分自身を見つめなおすことができるようになり、ダメなことはダメだと言えるようになった。
・周りに対して優しくなったのではないかと思う。
・私たちとは違って障害がある友人はとても純粋で素直です。そんな彼らを見て「自分もこうなりたい」と考えるようになった。
・もっと自分のことを考えるようになった。障害のある友だちと、どう接したらいいのか？考えるようになった。
・人に対する思いやりや、気を遣うこと、優しい心を持つことが大切だと学んだ。
・障害を持つ子と関わる前は他人のことを考えることはなかった。彼らの頑張りを見てからは人の気持ちを考えるようになった。
・全部助けてしまったら、その人のためにならないという考え方に変わりました。
・電車の中や公衆の場で、障害のある方を見ると自然と手助けをしたいと思うようになった。

5. 障害のある友だちとの関わりによって、障害のある友だちが変わったと思うことはありますか？

1 年			2 年			3 年		
ある	ない	わからない	ある	ない	わからない	ある	ない	わからない
46.7%	0.0%	53.3%	44.4%	5.6%	50.0%	65.2%	0.0%	34.8%







1 年生では関わりの時間がまだ少ないこともあり、障害のある友だちの変化に気づいていない、もしくは「自分の関わりがきっかけで変化しているかどうかわからない」という生徒の割合が多いと思われる。3 年生になると、自分の関わりによって、障害のある友だちの変化が間違いなくあることに気づくとともに、それを意識しながら（変えてあげたいという思い）関わっている状況があると思われる。

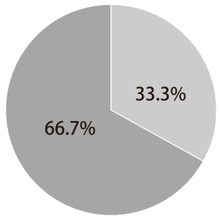
※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

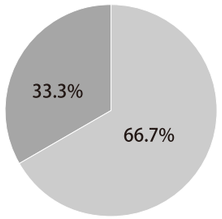
・いつも時計を気にしていた子が、最近気にせずに清掃をしていて、変わったと思いました。
・相手の目を少しずつだが頑張って見ようとしていること。
・様々な場面で頼ってくれるようになった。
・口調が悪くて注意をしたらすぐになおした。
・入学した頃より挨拶がちゃんとできる。

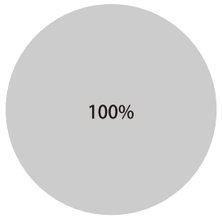
・自分勝手な行動が多くありましたが、関わるにつれて周りのことを意識して行動するようになった。自分の意見を言えるようになってきた。
・挨拶を自分からしなかったけれど、自分から積極的にできるようになった。
・言ったことをちゃんとやってくれるようになった。自分から話してくれることが多くなった。
・入学前に比べてすごく素直になった。笑顔が増えた。
・色々な人に話しをできるようになったと思います。
・人に気を遣うようになり、コミュニケーションをとるようになった。
・長い時間静かにしていられなかった人が、1 年経って静かにできるようになったのはすごいと思いました。
・前より何かをしてくれるようになった。
・少しずつ言葉を理解してきている。
・弟の感情表現が豊かになった。よく人の真似をするようになった。社交性がついたのだと思う。
・手をたたくことや、服を噛むことが少なくなってきたように思う。
・他の人への気遣いができるようになってきているように思う。
・以前はその子から話しかけてくれなかったけれど、3 年になってその子から話しをしてくれるようになった。
・少しずつだが私の言葉に答えるようになった。
・最初は機械的に見えていたけれど、今は本当の笑顔で笑っているように見えます。
・わからないことがあれば、聞いてくれるようになった。
・昔より気軽に話してくれる。

6. 学校生活を送る中で、卒業後の進路の方向性を定めることができましたか？

1 年		2 年		3 年	
できた	できていない	できた	できていない	できた	できていない
33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	100%	0.0%

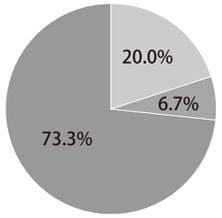


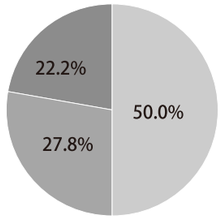


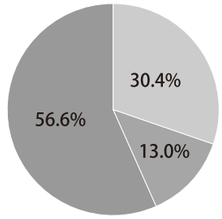


7. 卒業後の進路を定めるにあたり、障害のある仲間と出会った（過ごした）ことが影響していると思いますか？

1 年			2 年			3 年		
思う	思わない	わからない	思う	思わない	わからない	思う	思わない	わからない
20.0%	6.7%	73.3%	50.0%	27.8%	22.2%	30.4%	13.0%	56.6%







1 年生では、実際自身の進路についてまだ定まっていないこともあり、影響していると考えている生徒は 20%。これが 2 年生では一旦 50% まで上昇するも、3 年生では現実的に進路の方向性を考えた場合、30% の割合に落ち着く。

※「思う」と答えた場合、どのような進路を選びましたか（選びますか）？具体的に書いてください。

・介護、調理。
・障害のあるの子たちは目の前の仕事を頑張る。そんな考えに自分は変えられました。仕事を見つけることはもちろん仕事に合わせることを意識するようになりました。
・特別支援教員。
・私は障害のある子と接して、障害のある友だちのおかげで人との関わりの大切さに気付いた。幼児教育の方向で進路を考えている。
・看護、障害のある子に対し配慮は必要だ。学んでいきたいと思う。
・障害のある子たちと触れ合う仕事がしてみたい。（リハビリトレーナーなど）
・人の役に立てて、ダメなところは言いあえる会社。
・人との触れ合いが多いところに行きたいと思います。
・もとから障害のある人と関わる仕事がしたいと思っていましたが、この学校に入ってより一緒にいたいという気持ちが出てきました。施設などで働きたいと思います。
・バディや障害のある友だちと出会えた事で、大学で特別支援教員コースに進みたいと思いました。
・正直言ってお先真っ暗な自分がいましたが、彼らと出会い、一生懸命生きている様子を見て、自分自身がもっと何事にも真剣に取り組まなければと考えるようになりました。自分を再生することができました。
・将来の仕事が人と関わる仕事なので、ここでの経験が生きてくると思う。
・学校生活外ではあるけれど、耳が一切聞こえない子との出会いがあり、手話も学べる学科を選んだ。

＜混合教育の成果として＞

①入学当時は「料理人になりたい」とう、別の目標を持っていた生徒でも、在校中に障害のある友人と接しているうちに教育、福祉に進路の方向性を定める者が毎年いる。
②本校卒業生が「教員」「グループホームのスタッフや世話人」等の職種を選んで就職しているケースも多く、本学園においても、学園卒業生が教員の 1 割を占めている。
③卒業後自身の勤務する会社（障害者雇用を推進している企業等）で、積極的に後輩（本校の障害ある生徒）を採用してくれる卒業生もいる。
④自身の結婚式に在校中バディであった障害ある友人を招待するなど、卒業後も友人関係を絶やさない者もいる。
⑤休日に一緒に映画を見に行ったり、買い物等へ誘うなどする生徒もいる。

友だちとの関わりについて、以下のアンケートに答えてください

友だちとの関わりについてのアンケート　（　　）学年

友だちとの関わりについて、以下のアンケートに答えてください。

問 1．　入学前に、障害のある人と関わった経験はありましたか？

・ある　　・ない　　※「ある」と答えた場合、具体的にどのような関わりがありましたか？

問 2．　入学後、障害のある人に対する思いが変わりましたか？

・変わった　　・変わらない　　・わからない

問 2-1.（変わったと答えた場合のみ）きっかけとなった出来事について、次の中から当てはまるものを全て選んでください。

・ホームルーム・専門教科の授業・普通教科の授業・交流給食・縦割清掃・部活動
・友愛会活動 ・入学式・一年生研修・スポーツ大会・林間学習・盆踊り・マラソン大会
・学園祭（紫峰祭）・合唱コンクール・スキー教室・ハワイ学習・スピーチコンテスト
・卒業式（先輩の卒業式に参加して）
・その他（具体的に　　）

問 3．　今、あなたにはバディがいますか？

・いる　　・いない

問 3-1.（問 3 で「いる」と答えた人のみ）あなたにとってバディはどのような存在ですか？具体的に書いてください。

問 3-2.（問 3 で「いる」と答えた人のみ）バディと過ごす中で、嬉しかったことはありますか？

・ある　　・ない　　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 3-3.（問 3 で「いる」と答えた人のみ）バディと過ごす中で、悩んでいる事はありますか？

・ある　　・ない　　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 4．　障害のある友だちとの関わりによって、自分自身が変わったと思うことはありますか？

・ある　　・ない　　・わからない　　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 5．　障害のある友だちとの関わりによって、障害のある友だちが変わったと思うことはありますか？

・ある　　・ない　　・わからない　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 6．　学校生活を送る中で、卒業後の進路の方向性を定めることができましたか？

・できた　　・できていない

問 7．　卒業後の進路を定めるにあたり、障害のある友だちと出会った（過ごした）ことが影響していると思いますか？

・思う　　・思わない　　・わからない

※「思う」と答えた場合、どのような進路を選びましたか（選びますか）、具体的に書いてください。

以上で質問は終了です。協力、ありがとうございました。

4−2　DVD「ぼくとバディと」を活用した教材開発

授業の位置づけと狙い

◇テ ー マ：インクルーシブ教育推進～障害のある人への理解推進のために～

◇使用教材：DVD「ぼくとバディと」平成 27 年度 文部科学省委託事業成果物（制作 武蔵野東高等専修学校）

◇狙　　い：「インクルーシブ教育の推進」「障害のある人への理解教育」

＜授業展開＞2 コマ（45 分授業 ×2）の場合 → ワークシート α を使用

1 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク①(10 分)	ワークシート α ①「今までに障害のある人に関わった経験はありますか？」を記入させる。	DVD 視聴前に記入させる。※何も書けなくても構わない。
DVD(22 分)	映像教材 DVD「ぼくとバディと」を視聴させる。	
ワーク②(13 分)	ワークシート α②「DVD を見て、障害のある人に対する思い（考え方）が変わりましたか？」を記入させる。	DVD 視聴後ﾜｰｸｼｰﾄ②の A、B、C のいずれかに〇をさせた上で、自分の考えを記入させる。

2 時間目	活動内容	指導上の留意点
発表(15 分)	ワークシートα②で記入した内容をそれぞれ発表する。	
ワーク③(10 分)	ワークシート α③「障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。あなたは今後どのように接しようと思いますか？」を記入させる。	
発表(15 分)	ワークシート α③で記入した内容をそれぞれ発表する。	
まとめ(5 分)	皆の発表を聞いて、思ったこと、感じたことをまとめとして書いてみる。	

＜授業展開＞3 コマ（45 分授業 ×3）の場合　→　ワークシート β を使用

1 時間目		指導上の留意点
ワーク①(10 分)	ワークシート β ①「今までに障害のある人に関わった経験はありますか？」を記入させる。	DVD 視聴前に記入させる。※何も書けなくても構わない。
DVD(22 分)	映像教材 DVD「ぼくとバディと」を視聴させる。	
ワーク②-Ⅰ(13 分)	ワークシート β②「DVD を見て、障害のある人に対する思い（考え方）が変わりましたか？」Ⅰ「自分の考え」を記入させる。	

2 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク②-Ⅱ(15 分)	グループで話し合い、ワークシート β②-Ⅱ「グループの考え」にまとめを記入する。	グループは 4、5 名程度。
発表(20 分)	グループの代表が考えを発表する。	
ワーク③(10 分)	ワークシート β③「障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。あなたは今後どのように接しようと思いますか？」Ⅰ「自分の考え」を記入させる。	

3 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク③-Ⅱ(15 分)	グループで話し合い、ワークシート β③-Ⅱ「グループの考え」にまとめを記入する。	グループは 4、5 名程度。
発表(20 分)	グループの代表が考えを発表する。	
まとめ(10 分)	皆の発表を聞いて、思ったこと、感じたことをまとめとして書いてみる。	思ったまま記述する。

ワークシート α（2 コマ授業で使用）

―DVD 視聴前に記入―

①今までに、障害のある人に関わった経験はありますか？（10 分）

ある　・　ない

「ある」と答えた場合どのような関わりがありましたか？具体的に書いて見ましょう！

―DVD 視聴後に記入―

②「ぼくとバディと」DVD を見て、障害のある人に対する思い（考え）が変わりましたか？（13 分）

A「変わった」と答えた場合、どのように変わったか文章にして見ましょう

B「変わらない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

C「わからない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

	Ⅰ　自分の考え
A、B、C いずれかに〇をつける A:「変わった」 B:「変わらない」 C:「わからない」	

③障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行う事になりました。（10 分）
あなたは、今後どのようなことに配慮し（気をつけて）接しようと思いますか？

Ⅰ　自分の考え

④自分の考えと皆の発表を比較するなど「思ったこと」「感じたこと」等をまとめ「こころのバリアフリー」について自由に書いてみましょう！（5 分）

ワークシートβ（3コマ授業で使用）

―DVD 視聴前に記入―

①今までに、障害のある人に関わった経験はありますか？（10分）

ある　・　ない

「ある」と答えた場合どのような関わりがありましたか？具体的に書いて見ましょう！

―DVD 視聴後に記入―

②「ぼくとバディと」DVDを見て、障害のある人に対する思い（考え）が変わりましたか？

A「変わった」と答えた場合、どのように変わったか文章にして見ましょう

B「変わらない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

C「わからない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

	Ⅰ　自分の考え（13分）	Ⅱ　グループの考え（15分）
A、B、Cいずれかに○をつける A:「変わった」 B:「変わらない」 C:「わからない」		

③障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行う事になりました。
あなたは、今後どのようなことに配慮し接しようと思いますか？

Ⅰ　自分の考え（10分）	Ⅱ　グループの考え（15分）

④Ⅰ自分の考え Ⅱグループの考え 皆の発表等を比較しながら「思ったこと」「感じたこと」等
「こころのバリアフリーについて自由に書いてみましょう！（10分）

第5章　まとめと課題

現在、多くの高等専修学校が発達障害のある生徒や特別に配慮が必要な生徒を受け入れている。また、ほとんどの学校が障害のある生徒と障害のない生徒を同環境の中で教育支援をしている状況があり、苦労されていると聞いている。平成27年度から本校で取り組んできた混合教育についての成果を全国の高等専修学校に普及していくことに努めているところである。

昨年度同様、全国高等専修学校協会及び学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校との連携により実施したアンケート調査においては、昨年度の結果を踏まえて、より具体的な回答を求める内容にして実施した。そこから見えてきたものとして、当該生徒の教育支援を行うにあたって、「少人数制クラス編成」「教員の配置（ティームティーチング、担任・副担任制、専門家教員の配置等）」「教育環境の整備」「教材の工夫」「生徒間の関係構築」「個別支援」「保護者との連携」等の具体的な工夫点が見えてきた。まさに、この取り組みについては全て本校では既に取り組んでいるところであり、本校の取り組みを普及していくことの必要性を感じた。また、課題となるところとすれば生徒、保護者、教員の障害受容の問題、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の取得を求めるのか否かの問題などがある。当該生徒の社会自立を支援するにあたって、何が幸せにつながることになるのか、あらためて考えていく必要があると考える。そのためにも本校の教育を外部に発信し、考えていただける材料を提供しなければならないと考える。

今年度は、本事業の実証講座として位置づけ、平成28年9月24日(土)に「混合教育（インクルーシブ教育）の実践報告―30年間の人間教育の軌跡―」をテーマとして公開授業を開催した。北海道から広島県・徳島県の高等専修学校の先生方、都内・近県の中学校の先生方等85名にご参加いただき、基調講演・公開授業・パネルディスカッション・分科会等を通して研修を行った。発達障害のある生徒に対する具体的な教育支援の現場を、授業を通して日々の混合教育の様子を見ていただき、「発達障害」「混合教育」「進路指導」「教育支援」について本校教員から事例発表をする等多くの情報を持ち帰っていただけるように努めた。参加された先生方からは、第3章のアンケート調査結果にもあるように好評価をいただき、各校の教育実践に向けてヒントを提供できたと受けとめている。

また、今年度の事業から新たに混合教育推進のための「障害のある人への理解教育」をテーマにカリキュラムと教材開発の取り組みを始めた。途中段階ではあるが、現状の取り組みを本書に表し、次年度はさらに深まりのあるものにできるよう、引き続き努めていきたい。

本事業の成果物として、平成27、28年度の2年間をかけて、混合教育を実践している本校として日々取り組んできた教育そのものをまとめ、『混合教育30年間の実践記録』の冊子を完成させることができた。本書と共に全国の高等専修学校等に頒布し、本校の取り組みをお役立ていただければ幸いである。

また、『混合教育に関わる年間活動・指導カリキュラム（本校における普通教科・専門教科・ホームルーム版）』がデータとして完成している。全ての教科について混合教育に関連付けた事項として同環境下で学ぶ上で本校が留意している点について明らかにし、他校の参考となるようなカリキュラムとして、冊子としてまとめて頒布をしていきたいと考えている。

以上のように、今年度で完成を見せたものもあるが、次年度に継続して取り組みたいものもある。ぜひとも次年度も継続して事業を推進することを希望するところである。

最後に、本校では本事業と別に「発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業」にも取り組んできた。是非とも2事業の取り組みの成果をあわせて目を通していただくことを切にお願いする。

＜2 年生＞

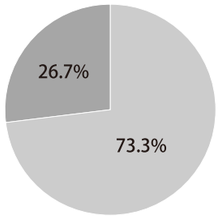
・まだあまり深い関係になれていない。もっともっと仲良くなっていきたい。
・たまに「バディだから…」という理由で一緒にいてくれるのかな？ と不安になることがあります。何故なら私と一緒にいる時よりも、他の人と一緒にいる時の方が楽しそうにしている時があるからです。
・話しをちゃんと聞いてくれなかったり、すぐ怒ってしまう時がある。思ったことを行動に出すのではなく、口でちゃんと言って欲しい。
・嫌だと思うことをやめてと言っても、私に対してやってくる。
・話してる時、目をみないことがある。
・本当に信頼されているかわからないし、何を考えているのかよくわからない。
・声が大きいので、なおして欲しいと言っているがなおしてくれない。仕事に就いた時うまくやっていけるのか心配しています。
・いつもはできないことが、怒られたらできるようになること。
・思ったことをはっきりと言うので、頭にくることがたまにあります。
・どこまでを手伝って、どこを自分でやってもらえばいいのかがまだわからない。一緒に成長するためにはどうすればよいのかわからない。
・自分の話しをまだ聞いてくれない。彼の怒りを抑えられない。
・どう関わっていくのが正しいのか？

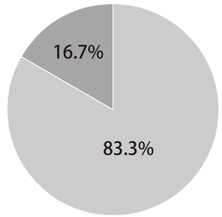
＜3年生＞

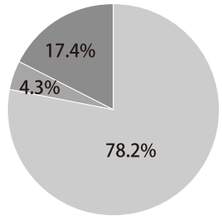
・給食を楽しんで食べてもらう方法。
・服を噛むことや、手を叩くことがまだ残ったまま卒業して、就職してしまうこと。
・卒業後楽しく人生をバディが送れるのか不安。
・前よりは話をしてくれるようになったけれど、ご飯を食べている時に一定の人としか話さない。自分の意見をあまり言えないこと。
・最近一人でずっと笑っている。
・言ってもなおらないこともあるが、どう向き合えば良いかわからないこと。
・たまに本音がわからない。

4. 障害のある友だちとの関わりによって、自分自身が変わったと思うことはありますか？

1 年			2 年			3 年		
ある	ない	わからない	ある	ない	わからない	ある	ない	わからない
73.3%	0.0%	26.7%	83.3%	0.0%	16.7%	78.3%	4.3%	17.4%







「自分自身が変わったと思う」という意識は 1 年生では 73.3%、 2 年生では 83.3% に一旦上昇するが、3 年生になると 78.2% に数値が下がる。3 年生になると「変わる」「変わらない」ということすらあまり意識しなくなり、互いに自然な距離感が生まれているからであると想像できる。これは1､2 年生の答えにはない､3 年生で「変わったことはない」という回答があることからも想像できる。

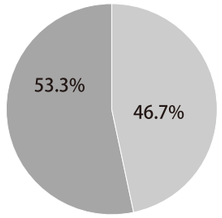
「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

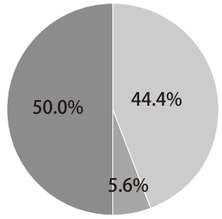
・バディに何かを説明する時は、わかりやすく具体的に説明しなければいけないので、バディの子でもわかるような話し方ができるようになったと思います。
・小、中学生の時は「何でうるさくしているの？」と思っていましたが、この学校に入ってからそれがなくなりました。
・自分だけのことではなく、周りを色々見られるようになった。
・コミュニケーションが不得意なだけで、相手がどんな人か決めつけることがなくなった。
・より伝わりやすい説明ができるようになりました。
・誰にでも優しくしたり、話すことが多くなった。
・姉弟が全員障害を持っていますが、前までは何もできないと思っていて色んな世話をしていましたが、今はなるべく一人で何でもさせるようにしています。
・周りとの関わりが変わりました。言ってはいけない言葉 (相手が傷つく言葉) を知ることができ、変われたと思います。
・色々な人に優しく接することができるようになった。
・自分のことだけを考えていると、バディを見失って危ない目にあわせてしまうので、周りを気にするようになった。
・高校に入るまでは内気で人見知りだったけれど、高校に入ってからは笑顔で明るい子に沢山出会い、自分も変われてきている気がします。
・最近心から笑えるようになった気がする。
・怒るということが減った。喜怒哀楽が出せるようになった。人の大切さがわかった。視野が少し広くなった。
・話をする時、分かりやすいような言葉に変えて話しをするようになった。相手のことをよく考えるようになった。
・障害のある人たちのために「何かやってあげなくちゃ」などという気持ちが出てきた。
・明るくなりました。少しずつですが自分の考えがポジティブになりました。人の気持ちを、より考えることができるようになったと思います。
・会話をする回数が多くなった。
・相手のことを前よりも考えるようになった。人について考えるようになった。
・色々な事に挑戦できるようになった。
・障害のことについて、多くのことを知ることができた
・今まで気にしていなかったことを気にするようになった。
・見方、考え方が変わった。
・今までは障害を持っている弟の行動パターンなどの情報を元に、弟以外の障害者を理解しようとしていたが、一人ひとり持っている個性が違うということを理解した。
・変わったとは思うが､自分ではわからない｡何が変わったか考えることはあるが難しいので答えが出ない。
・障がいに対する考え方が変わった。中学時代､障がいを持った人をばかにしていた自分が恥ずかしい。

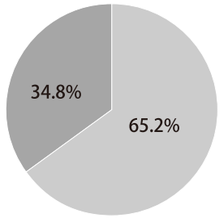
・障害のある人と関わっていくうちに、自分と似ているところがあったりすると「自分はどうだろう？本当に自分は健常なのか？」と不安になることがある。
・自分以外の人間の様子を、以前よりは見られるようになった。
・「自分も変わらなければ」という気持ちになった。
・この学校に入るまでは、駅などで障害のある人を見かけると、その場から少し離れたりしていたが、今は見かけても離れたりはしない。
・自分自身を見つめなおすことができるようになり、ダメなことはダメだと言えるようになった。
・周りに対して優しくなったのではないかと思う。
・私たちとは違って障害がある友人はとても純粋で素直です。そんな彼らを見て「自分もこうなりたい」と考えるようになった。
・もっと自分のことを考えるようになった。障害のある友だちと、どう接したらいいのか？考えるようになった。
・人に対する思いやりや、気を遣うこと、優しい心を持つことが大切だと学んだ。
・障害を持つ子と関わる前は他人のことを考えることはなかった。彼らの頑張りを見てからは人の気持ちを考えるようになった。
・全部助けてしまったら、その人のためにならないという考え方に変わりました。
・電車の中や公衆の場で、障害のある方を見ると自然と手助けをしたいと思うようになった。

5. 障害のある友だちとの関わりによって、障害のある友だちが変わったと思うことはありますか？

1 年			2 年			3 年		
ある	ない	わからない	ある	ない	わからない	ある	ない	わからない
46.7%	0.0%	53.3%	44.4%	5.6%	50.0%	65.2%	0.0%	34.8%







1 年生では関わりの時間がまだ少ないこともあり、障害のある友だちの変化に気づいていない、もしくは「自分の関わりがきっかけで変化しているかどうかわからない」という生徒の割合が多いと思われる。3 年生になると、自分の関わりによって、障害のある友だちの変化が間違いなくあることに気づくとともに、それを意識しながら（変えてあげたいという思い）関わっている状況があると思われる。

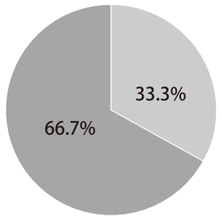
※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

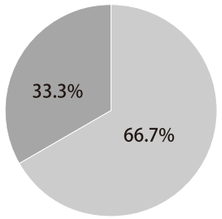
・いつも時計を気にしていた子が、最近気にせずに清掃をしていて、変わったと思いました。
・相手の目を少しずつだが頑張って見ようとしていること。
・様々な場面で頼ってくれるようになった。
・口調が悪くて注意をしたらすぐになおした。
・入学した頃より挨拶がちゃんとできる。

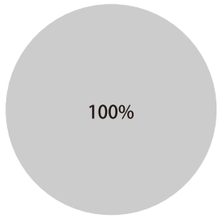
・自分勝手な行動が多くありましたが、関わるにつれて周りのことを意識して行動するようになった。自分の意見を言えるようになってきた。
・挨拶を自分からしなかったけれど、自分から積極的にできるようになった。
・言ったことをちゃんとやってくれるようになった。自分から話してくれることが多くなった。
・入学前に比べてすごく素直になった。笑顔が増えた。
・色々な人に話しをできるようになったと思います。
・人に気を遣うようになり、コミュニケーションをとるようになった。
・長い時間静かにしていられなかった人が、1 年経って静かにできるようになったのはすごいと思いました。
・前より何かをしてくれるようになった。
・少しずつ言葉を理解してきている。
・弟の感情表現が豊かになった。よく人の真似をするようになった。社交性がついたのだと思う。
・手をたたくことや、服を噛むことが少なくなってきたように思う。
・他の人への気遣いができるようになってきているように思う。
・以前はその子から話しかけてくれなかったけれど、3 年になってその子から話しをしてくれるようになった。
・少しずつだが私の言葉に答えるようになった。
・最初は機械的に見えていたけれど、今は本当の笑顔で笑っているように見えます。
・わからないことがあれば、聞いてくれるようになった。
・昔より気軽に話してくれる。

6. 学校生活を送る中で、卒業後の進路の方向性を定めることができましたか？

1 年		2 年		3 年	
できた	できていない	できた	できていない	できた	できていない
33.3%	66.7%	66.7%	33.3%	100%	0.0%

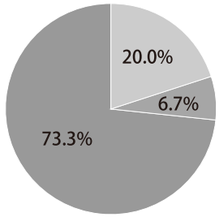


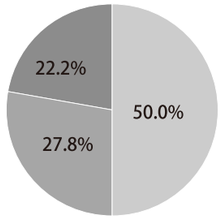


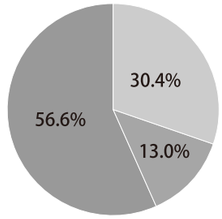


7. 卒業後の進路を定めるにあたり、障害のある仲間と出会った（過ごした）ことが影響していると思いますか？

1 年			2 年			3 年		
思う	思わない	わからない	思う	思わない	わからない	思う	思わない	わからない
20.0%	6.7%	73.3%	50.0%	27.8%	22.2%	30.4%	13.0%	56.6%







1 年生では、実際自身の進路についてまだ定まっていないこともあり、影響していると考えている生徒は 20%。これが 2 年生では一旦 50% まで上昇するも、3 年生では現実的に進路の方向性を考えた場合、30% の割合に落ち着く。

※「思う」と答えた場合、どのような進路を選びましたか（選びますか）？具体的に書いてください。

・介護、調理。
・障害のあるの子たちは目の前の仕事を頑張る。そんな考えに自分は変えられました。仕事を見つけることはもちろん仕事に合わせることを意識するようになりました。
・特別支援教員。
・私は障害のある子と接して、障害のある友だちのおかげで人との関わりの大切さに気付いた。幼児教育の方向で進路を考えている。
・看護、障害のある子に対し配慮は必要だ。学んでいきたいと思う。
・障害のある子たちと触れ合う仕事がしてみたい。（リハビリトレーナーなど）
・人の役に立てて、ダメなところは言いあえる会社。
・人との触れ合いが多いところに行きたいと思います。
・もとから障害のある人と関わる仕事がしたいと思っていましたが、この学校に入ってより一緒にいたいという気持ちが出てきました。施設などで働きたいと思います。
・バディや障害のある友だちと出会えた事で、大学で特別支援教員コースに進みたいと思いました。
・正直言ってお先真っ暗な自分がいましたが、彼らと出会い、一生懸命生きている様子を見て、自分自身がもっと何事にも真剣に取り組まなければと考えるようになりました。自分を再生することができました。
・将来の仕事が人と関わる仕事なので、ここでの経験が生きてくると思う。
・学校生活外ではあるけれど、耳が一切聞こえない子との出会いがあり、手話も学べる学科を選んだ。

＜混合教育の成果として＞

①入学当時は「料理人になりたい」とう、別の目標を持っていた生徒でも、在校中に障害のある友人と接しているうちに教育、福祉に進路の方向性を定める者が毎年いる。
②本校卒業生が「教員」「グループホームのスタッフや世話人」等の職種を選んで就職しているケースも多く、本学園においても、学園卒業生が教員の 1 割を占めている。
③卒業後自身の勤務する会社（障害者雇用を推進している企業等）で、積極的に後輩（本校の障害ある生徒）を採用してくれる卒業生もいる。
④自身の結婚式に在校中バディであった障害ある友人を招待するなど、卒業後も友人関係を絶やさない者もいる。
⑤休日に一緒に映画を見に行ったり、買い物等へ誘うなどする生徒もいる。

友だちとの関わりについて、以下のアンケートに答えてください

友だちとの関わりについてのアンケート　（　　）学年

友だちとの関わりについて、以下のアンケートに答えてください。

問 1．　入学前に、障害のある人と関わった経験はありましたか？

・ある　　・ない　　※「ある」と答えた場合、具体的にどのような関わりがありましたか？

問 2．　入学後、障害のある人に対する思いが変わりましたか？

・変わった　　・変わらない　　・わからない

問 2-1.（変わったと答えた場合のみ）きっかけとなった出来事について、次の中から当てはまるものを全て選んでください。

・ホームルーム・専門教科の授業・普通教科の授業・交流給食・縦割清掃・部活動
・友愛会活動 ・入学式・一年生研修・スポーツ大会・林間学習・盆踊り・マラソン大会
・学園祭（紫峰祭）・合唱コンクール・スキー教室・ハワイ学習・スピーチコンテスト
・卒業式（先輩の卒業式に参加して）
・その他（具体的に　　）

問 3．　今、あなたにはバディがいますか？

・いる　　・いない

問 3-1.（問 3 で「いる」と答えた人のみ）あなたにとってバディはどのような存在ですか？具体的に書いてください。

問 3-2.（問 3 で「いる」と答えた人のみ）バディと過ごす中で、嬉しかったことはありますか？

・ある　　・ない　　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 3-3.（問 3 で「いる」と答えた人のみ）バディと過ごす中で、悩んでいる事はありますか？

・ある　　・ない　　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 4．　障害のある友だちとの関わりによって、自分自身が変わったと思うことはありますか？

・ある　　・ない　　・わからない　　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 5．　障害のある友だちとの関わりによって、障害のある友だちが変わったと思うことはありますか？

・ある　　・ない　　・わからない　※「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。

問 6．　学校生活を送る中で、卒業後の進路の方向性を定めることができましたか？

・できた　　・できていない

問 7．　卒業後の進路を定めるにあたり、障害のある友だちと出会った（過ごした）ことが影響していると思いますか？

・思う　　・思わない　　・わからない

※「思う」と答えた場合、どのような進路を選びましたか（選びますか）、具体的に書いてください。

以上で質問は終了です。協力、ありがとうございました。

4−2　DVD「ぼくとバディと」を活用した教材開発

授業の位置づけと狙い

◇テ ー マ：インクルーシブ教育推進～障害のある人への理解推進のために～

◇使用教材：DVD「ぼくとバディと」平成 27 年度 文部科学省委託事業成果物（制作 武蔵野東高等専修学校）

◇狙　　い：「インクルーシブ教育の推進」「障害のある人への理解教育」

＜授業展開＞2 コマ（45 分授業 ×2）の場合 → ワークシート α を使用

1 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク①(10 分)	ワークシート α ①「今までに障害のある人に関わった経験はありますか？」を記入させる。	DVD 視聴前に記入させる。※何も書けなくても構わない。
DVD(22 分)	映像教材 DVD「ぼくとバディと」を視聴させる。	
ワーク②(13 分)	ワークシート α②「DVD を見て、障害のある人に対する思い（考え方）が変わりましたか？」を記入させる。	DVD 視聴後ﾜｰｸｼｰﾄ②の A、B、C のいずれかに〇をさせた上で、自分の考えを記入させる。

2 時間目	活動内容	指導上の留意点
発表(15 分)	ワークシートα②で記入した内容をそれぞれ発表する。	
ワーク③(10 分)	ワークシート α③「障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。あなたは今後どのように接しようと思いますか？」を記入させる。	
発表(15 分)	ワークシート α③で記入した内容をそれぞれ発表する。	
まとめ(5 分)	皆の発表を聞いて、思ったこと、感じたことをまとめとして書いてみる。	

＜授業展開＞3 コマ（45 分授業 ×3）の場合　→　ワークシート β を使用

1 時間目		指導上の留意点
ワーク①(10 分)	ワークシート β ①「今までに障害のある人に関わった経験はありますか？」を記入させる。	DVD 視聴前に記入させる。※何も書けなくても構わない。
DVD(22 分)	映像教材 DVD「ぼくとバディと」を視聴させる。	
ワーク②-Ⅰ(13 分)	ワークシート β②「DVD を見て、障害のある人に対する思い（考え方）が変わりましたか？」Ⅰ「自分の考え」を記入させる。	

2 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク②-Ⅱ(15 分)	グループで話し合い、ワークシート β②-Ⅱ「グループの考え」にまとめを記入する。	グループは 4、5 名程度。
発表(20 分)	グループの代表が考えを発表する。	
ワーク③(10 分)	ワークシート β③「障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。あなたは今後どのように接しようと思いますか？」Ⅰ「自分の考え」を記入させる。	

3 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク③-Ⅱ(15 分)	グループで話し合い、ワークシート β③-Ⅱ「グループの考え」にまとめを記入する。	グループは 4、5 名程度。
発表(20 分)	グループの代表が考えを発表する。	
まとめ(10 分)	皆の発表を聞いて、思ったこと、感じたことをまとめとして書いてみる。	思ったまま記述する。

ワークシート α（2 コマ授業で使用）

―DVD 視聴前に記入―

①今までに、障害のある人に関わった経験はありますか？（10 分）

ある　・　ない

「ある」と答えた場合どのような関わりがありましたか？具体的に書いて見ましょう！

―DVD 視聴後に記入―

②「ぼくとバディと」DVD を見て、障害のある人に対する思い（考え）が変わりましたか？（13 分）

A「変わった」と答えた場合、どのように変わったか文章にして見ましょう

B「変わらない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

C「わからない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

	Ⅰ　自分の考え
A、B、C いずれかに〇をつける A:「変わった」 B:「変わらない」 C:「わからない」	

③障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行う事になりました。（10 分）
あなたは、今後どのようなことに配慮し（気をつけて）接しようと思いますか？

Ⅰ　自分の考え

④自分の考えと皆の発表を比較するなど「思ったこと」「感じたこと」等をまとめ「こころのバリアフリー」について自由に書いてみましょう！（5 分）

ワークシートβ（3コマ授業で使用）

―DVD 視聴前に記入―

①今までに、障害のある人に関わった経験はありますか？（10分）

ある　・　ない

「ある」と答えた場合どのような関わりがありましたか？具体的に書いて見ましょう！

―DVD 視聴後に記入―

②「ぼくとバディと」DVDを見て、障害のある人に対する思い（考え）が変わりましたか？

A「変わった」と答えた場合、どのように変わったか文章にして見ましょう

B「変わらない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

C「わからない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い（考え）がありますか？

	Ⅰ　自分の考え（13分）	Ⅱ　グループの考え（15分）
A、B、Cいずれかに○をつける A:「変わった」 B:「変わらない」 C:「わからない」		

③障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行う事になりました。
あなたは、今後どのようなことに配慮し接しようと思いますか？

Ⅰ　自分の考え（10分）	Ⅱ　グループの考え（15分）

④Ⅰ自分の考え Ⅱグループの考え 皆の発表等を比較しながら「思ったこと」「感じたこと」等
「こころのバリアフリーについて自由に書いてみましょう！（10分）

第5章　まとめと課題

現在、多くの高等専修学校が発達障害のある生徒や特別に配慮が必要な生徒を受け入れている。また、ほとんどの学校が障害のある生徒と障害のない生徒を同環境の中で教育支援をしている状況があり、苦労されていると聞いている。平成27年度から本校で取り組んできた混合教育についての成果を全国の高等専修学校に普及していくことに努めているところである。

昨年度同様、全国高等専修学校協会及び学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校との連携により実施したアンケート調査においては、昨年度の結果を踏まえて、より具体的な回答を求める内容にして実施した。そこから見えてきたものとして、当該生徒の教育支援を行うにあたって、「少人数制クラス編成」「教員の配置（ティームティーチング、担任・副担任制、専門家教員の配置等）」「教育環境の整備」「教材の工夫」「生徒間の関係構築」「個別支援」「保護者との連携」等の具体的な工夫点が見えてきた。まさに、この取り組みについては全て本校では既に取り組んでいるところであり、本校の取り組みを普及していくことの必要性を感じた。また、課題となるところとすれば生徒、保護者、教員の障害受容の問題、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の取得を求めるのか否かの問題などがある。当該生徒の社会自立を支援するにあたって、何が幸せにつながることになるのか、あらためて考えていく必要があると考える。そのためにも本校の教育を外部に発信し、考えていただける材料を提供しなければならないと考える。

今年度は、本事業の実証講座として位置づけ、平成28年9月24日(土)に「混合教育（インクルーシブ教育）の実践報告―30年間の人間教育の軌跡―」をテーマとして公開授業を開催した。北海道から広島県・徳島県の高等専修学校の先生方、都内・近県の中学校の先生方等85名にご参加いただき、基調講演・公開授業・パネルディスカッション・分科会等を通して研修を行った。発達障害のある生徒に対する具体的な教育支援の現場を、授業を通して日々の混合教育の様子を見ていただき、「発達障害」「混合教育」「進路指導」「教育支援」について本校教員から事例発表をする等多くの情報を持ち帰っていただけるように努めた。参加された先生方からは、第3章のアンケート調査結果にもあるように好評価をいただき、各校の教育実践に向けてヒントを提供できたと受けとめている。

また、今年度の事業から新たに混合教育推進のための「障害のある人への理解教育」をテーマにカリキュラムと教材開発の取り組みを始めた。途中段階ではあるが、現状の取り組みを本書に表し、次年度はさらに深まりのあるものにできるよう、引き続き努めていきたい。

本事業の成果物として、平成27、28年度の2年間をかけて、混合教育を実践している本校として日々取り組んできた教育そのものをまとめ、『混合教育30年間の実践記録』の冊子を完成させることができた。本書と共に全国の高等専修学校等に頒布し、本校の取り組みをお役立ていただければ幸いである。

また、『混合教育に関わる年間活動・指導カリキュラム（本校における普通教科・専門教科・ホームルーム版）』がデータとして完成している。全ての教科について混合教育に関連付けた事項として同環境下で学ぶ上で本校が留意している点について明らかにし、他校の参考となるようなカリキュラムとして、冊子としてまとめて頒布をしていきたいと考えている。

以上のように、今年度で完成を見せたものもあるが、次年度に継続して取り組みたいものもある。ぜひとも次年度も継続して事業を推進することを希望するところである。

最後に、本校では本事業と別に「発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業」にも取り組んできた。是非とも2事業の取り組みの成果をあわせて目を通していただくことを切にお願いする。